

UIJ ターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査結果について

1 調査目的

浜松市への UIJ ターン就職の促進による若者の転入増加と地元企業を担う人材及び労働力を確保するため、浜松市内企業並びに高校、進学先となる主な大学等、就職者を対象として調査を行い基礎データとするもの。(前回調査は平成 27 年度に実施)

2 調査概要

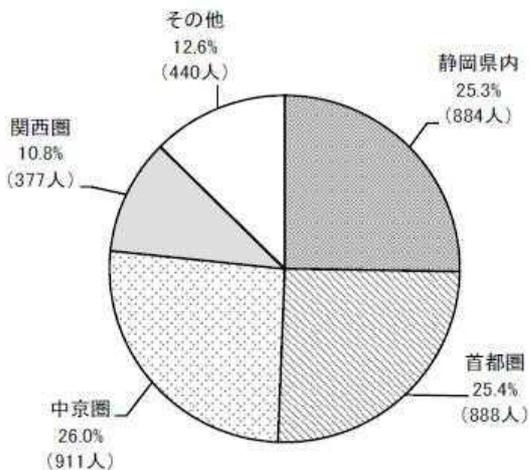
企業や大学等へのアンケート調査を主体とし、また一部ヒアリング調査を実施することで、より現実的かつ具体的な実態の把握に努めた。調査対象は以下の7つである。

- (1) 浜松市内高校
- (2) 静岡県内大学・浜松市内専門学校等
- (3) 静岡県外大学
- (4) 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生
- (5) 浜松市内企業就職者並びに UIJ ターン就職経験者
- (6) 浜松市外企業への就職者
- (7) 浜松市内企業

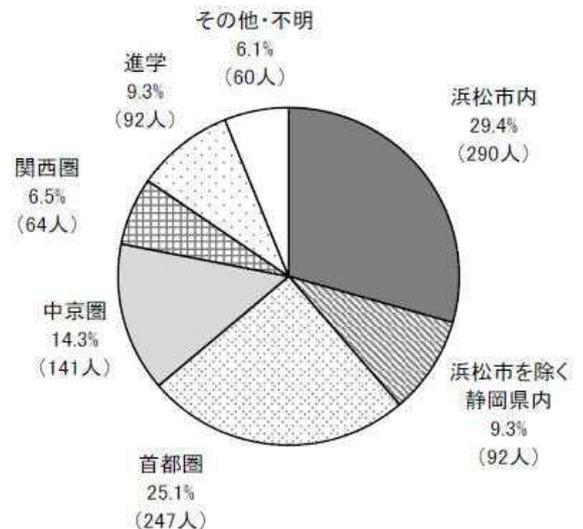
3 調査結果 (抜粋)

別紙報告書のとおり。

■市内高校生が進学した大学 (地域別)



■市内出身者で県外大学生の就職先 (地域別)



令和4年度

「UIJ ターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査業務」

業務報告書

令和5年3月

浜松市産業部産業振興課

浜松市 UIJ ターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査報告書

目次

第1章 全体概要	3
第2章 実態調査結果報告	5
I. 浜松市内高校	5
1. 実態調査概要	5
2. 実態調査結果	6
II. 静岡県内大学・浜松市内専門学校等	11
1. 実態調査概要	11
2. 実態調査結果	12
(1) 学生の状況について	12
(2) 就職支援状況について	13
3. ヒアリング報告	17
III. 静岡県外大学	19
1. 実態調査概要	19
2. 実態調査結果	20
(1) 静岡県外大学における学生の状況について	20
(2) 就職の傾向について	21
(3) 就職支援状況について	22
3. ヒアリング報告	27
IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生	29
1. 実態調査概要	29
2. 実態調査結果	31
(1) 希望する就職について	31
(2) 就職活動の内容について	37
(3) 「浜松就職・転職ナビJOBはま！」について	38
(4) 将来を含めた浜松市への就職意向について	39
(5) 浜松市への UIJ ターン就職時に希望する支援・取組について	41
V. 浜松市内企業就職者並びに UIJ ターン就職経験者	43
1. 実態調査概要	43
2. 実態調査結果	43
(1) 浜松市内勤務者の属性	43
(2) 浜松市内勤務者の就業状況について	45
(3) UIJ ターン実施状況について	47
(4) 「浜松就職・転職ナビJOBはま！」について	52

VI. 浜松市外企業への就職者	53
1. 実態調査概要	53
2. 実態調査結果	54
(1) 回答者の現在の状況について	54
(2) 勤務先の選択理由について	56
(3) 市内企業への就職活動について	57
VII. 浜松市内企業	59
1. 実態調査概要	59
2. 実態調査結果	62
(1) 現在の雇用者の状況について	62
(2) 新卒採用について	66
(3) 中途採用について	84
(4) 今後の採用活動について	89
(5) 「浜松就職・転職ナビJOBはま！」について	96
(6) 「浜松市奨学金返還支援事業」について	98
(7) 外国人材の雇用状況について	100
3. ヒアリング報告	104
第3章 まとめ	107
I. 浜松市内企業の雇用状況	108
II. 浜松市内就職者の状況	111
III. 新卒者における UIJ ターンの実態	112
IV. 中途採用者における UIJ ターンの実態	126
V. 浜松市への意見・要望	129
付録項目 調査票	付録 1

第1章 全体概要

本報告書は、浜松市への UIJ ターン就職の促進による若者の転入増加と、地元企業を担う人材及び労働力を確保するため、浜松市内企業並びに高校、進学先となる主な大学等、就職者を対象として行った調査結果に関する報告である。以下7つの調査を実施した。

1. 浜松市内高校実態調査
2. 静岡県内大学・浜松市内専門学校等実態調査（アンケート・ヒアリング）
3. 静岡県外大学実態調査（アンケート・ヒアリング）
4. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生の意識・実態調査（アンケート）
5. 浜松市内企業就職者並びに UIJ ターン就職経験者の意識・実態調査（Web アンケート）
6. 浜松市外企業への就職者の意識・実態調査（Web アンケート）
7. 浜松市内企業実態調査（アンケート・ヒアリング）

アンケート調査を主体に、主要項目について企業・大学を抽出してのヒアリング調査を実施した。アンケート調査で、幅広く情報を収集し客観的な実態を明らかにする一方、ヒアリング調査では、生の声や率直な意見を聴取することで、より現実的かつ具体的な実態を把握することを目的とした。

アンケート調査の集計のうち、市内企業に関するものは、適宜、業種別と従業員規模別に分け集計した。また、首都圏と中京圏の中間に位置する浜松市の地理的条件が、UIJ ターン就職を左右する決定要因の1つであるため、今回実施のアンケート集計では、必要に応じ、地域別に集計した。集計結果は、各調査別に順に記載し、最後に全体のまとめ及び分析を提示する。

（本報告書における用語の定義）

本報告書における用語の定義は、以下の通りとする。

- ・「浜松市内企業」 浜松市に事業所のある企業（本社・支社店・営業所・工場等問わず）
- ・「静岡県内大学」 法人本部が静岡県内にある大学
- ・「静岡県外大学」 法人本部が静岡県外にある大学
- ・「従業員規模」 正規社員及び非正規社員を合算した社員規模
- ・「首都圏」 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県
- ・「中京圏」 愛知県・岐阜県・三重県
- ・「関西圏」 大阪府・京都府・兵庫県

（本報告書における調査対象について）

「浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生の意識・実態調査」（アンケート）については、「大学生」のみを対象、それ以外の調査に関しては、「大学・短大・専門学校」を対象とした。

第2章 実態調査報告結果

I. 浜松市内高校

1. 実態調査概要

(1) 調査目的

本調査は、UIJ ターン就職の促進による若者の転入増加と、地元企業を担う人材及び労働力を確保するため浜松市内高校から基礎的データを収集し、今後の事業施策に活用する事を目的に実施した。

(2) 調査対象

浜松市内の公立高校 17 校・私立高校 10 校、全 27 校。

(3) 調査方法

令和 4 年 7 月 27 日～8 月 30 日、郵送による配布、郵送及び Web 回答により調査を実施。

(4) 回収状況

郵送数 27 校、回収数 27 校、回収率 100.0%

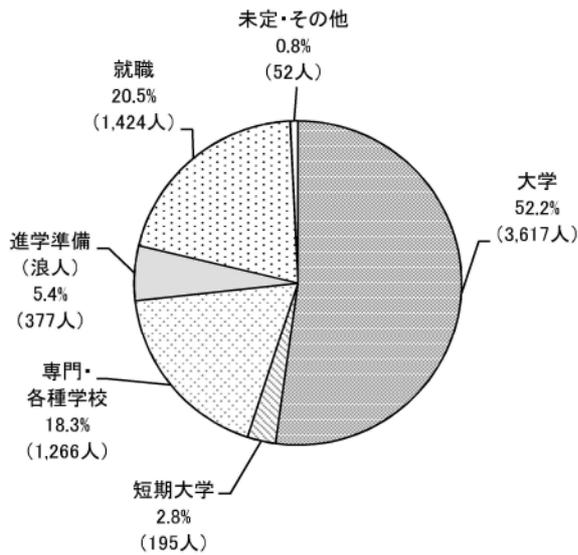
2. 実態調査結果

令和3年度卒業生の進路

- 浜松市内高校の令和3年度卒業生のうち、73.3%が進学、20.5%が就職。進路別をみると、「大学」(52.2%)、「短大」(2.8%)、「専門・各種学校」(18.3%)となる。進学先を地域別でみると「静岡県内」(37.9%)、「首都圏」(20.2%)、「中京圏」(23.7%)となる。
- 平成27年度調査と比較すると進学率は0.9ポイント増加した。「大学」が前回より1.1ポイント、「専門・各種学校」が0.8ポイント増加、一方で「短大」は1.0ポイント減少した。また、「就職」は0.5ポイント、「進学準備(浪人)」は0.4ポイントそれぞれ減少している。進学先の地域別の割合は、「静岡県内」は1.7ポイント、「中京圏」は0.1ポイント増加し、「首都圏」は3.4ポイント減と大きく減少した。

●令和3年度卒業生の進路別人数

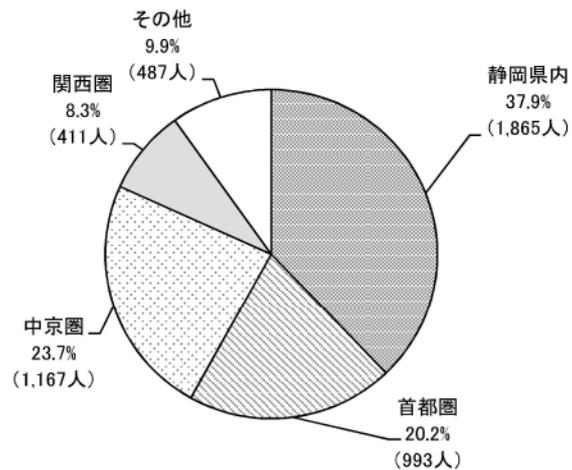
図表1 進路別の割合



(全体数 6,931 人)

●令和3年度「大学」「短大」「専門・各種学校」に進学した人の進路先

図表2 進学先の地域別の割合



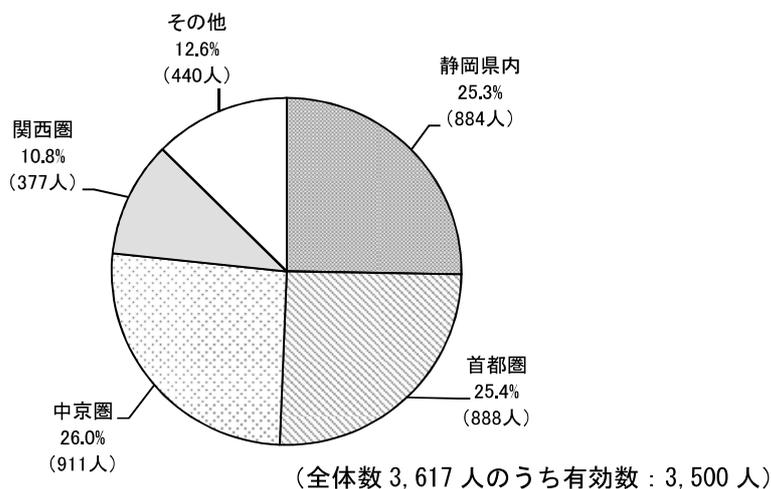
(全体数 5,078 人のうち有効数 : 4,923 人)

※首都圏は、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、中京圏は愛知県、岐阜県、三重県、関西圏は大阪府、京都府、兵庫県とする。
 ※集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回収比率の合計は100%にならない場合がある。

●令和3年度卒業生の進学先

- 大学へ進学した地域別の割合をみると、「静岡県内」(25.3%)、「首都圏」(25.4%)、「中京圏」(26.0%)、「関西圏」(10.8%)、「その他」(12.6%)となっている。

図表3-1 「大学」へ進学した地域別の割合・人数



※各高校には進学者数が多い上位10校の回答を求め、地域別に上位5校を表に示した。

図表3-1-1

静岡県内の大学

大学名	人数
常葉	246
聖隷クリストファー	172
静岡	128
静岡理工科	63
静岡産業	35

図表3-1-2

首都圏の大学

大学名	人数
日本	32
東海	26
中央	19
早稲田	17
日本体育	14

図表3-1-3

中京圏の大学

大学名	人数
愛知	69
愛知学院	65
中京	60
名城	50
名古屋	39

図表3-1-4

関西圏の大学

大学名	人数
立命館	44
京都	15
大阪	12
近畿	4
関西学院	3

図表3-1-5

その他の地域の大学

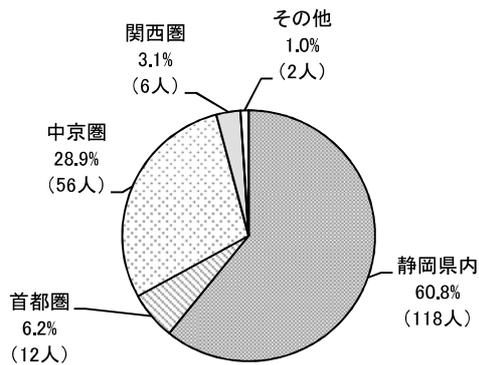
地域	人数
北海道	15
東北	9
北陸	5

I. 浜松市内高校

- 令和3年度に短期大学へ進学した地域別の割合をみると、「静岡県内」(60.8%)、「首都圏」(6.2%)、「中京圏」(28.9%)、「関西圏」(3.1%)、「その他」(1.0%)となっている。
- 令和3年度に専門学校へ進学した地域別の割合をみると、「静岡県内」(70.2%)、「首都圏」(7.6%)、「中京圏」(16.3%)、「関西圏」(2.3%)、「その他」(3.7%)と多くが静岡県内となっている

図表3-2

「短期大学」へ進学した地域別の割合・人数

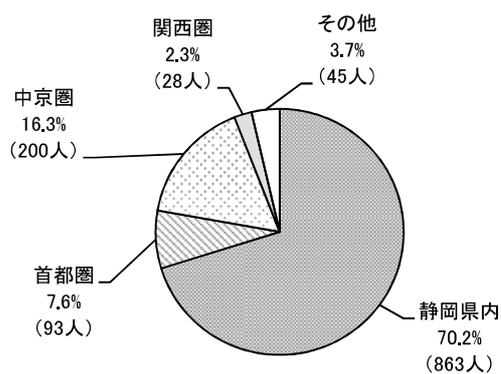


(全体数 195 人のうち有効数 : 194 人)

※各高校には進学者数が多い上位 10 校の回答を求めた。

図表3-3

「専門学校」へ進学した地域別の割合・人数



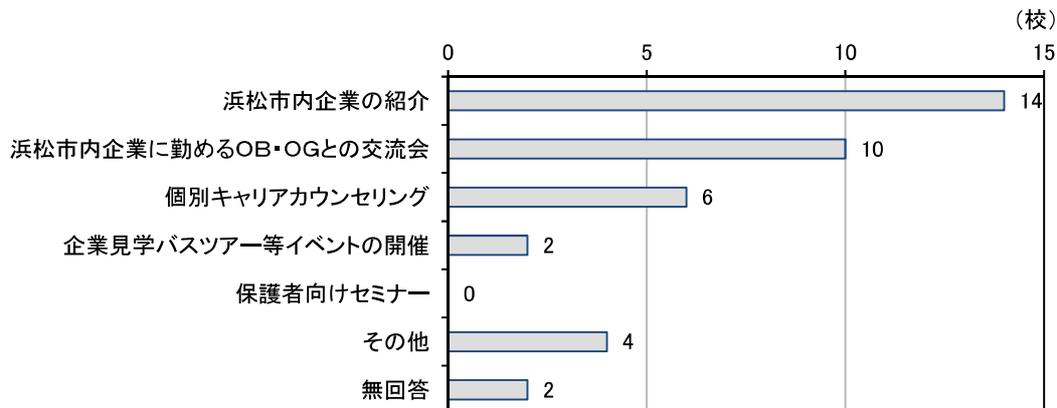
(全体数 1,266 人のうち有効数 : 1,229 人)

※各高校には進学者数が多い上位 10 校の回答を求めた。

●将来的なUターン就職支援にあたり、地方自治体と連携して取り組んでいきたい事業について聞いた(複数回答)。

- 集計の結果、「浜松市内企業の紹介」が 14 校で最も多かった。これに「浜松市内企業に勤めるOB・OGとの交流会」が 10 校、「個別キャリアカウンセリング」が 6 校で続いた。

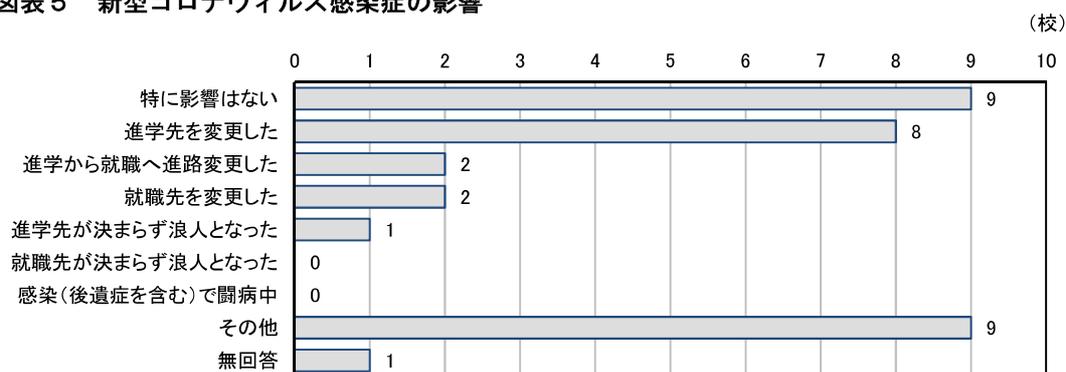
図表4 地方自治体と連携して取り組んでいきたい事業



●新型コロナウイルス感染症が生徒の進路に与えた影響について聞いた（複数回答）。

- 集計の結果、「特に影響はない」が9校で最も多くなった。「進学先を変更した」が8校、「進学から就職へ進路変更した」と「就職先を変更した」がそれぞれ2校あり、進学・就職にも影響が及んでいることがうかがえる。

図表5 新型コロナウイルス感染症の影響



- 「その他」の影響があったと回答した高校も9校あったが、「なかなか進路先を決めることができない」、「進学希望者が増えた」、「保護者意識が近県への進学を後押しした」、「県内志向が強まった」、「県内、あるいは愛知県の志望者が増えた」、「進学希望者が増加した」、「オープンキャンパスへの参加、内容の制限」、「再受験が増えた」、「専門学校への進学者が増えた」などの回答があった。

Ⅱ. 静岡県内大学・浜松市内専門学校等

1. 実態調査概要

(1) 調査目的

本調査は、地元就職の促進と地元企業を担う人材及び労働力を確保するため、静岡県内の大学及び浜松市内の専門学校等から基礎的データを収集し、今後の事業施策に活用することを目的に実施した。

(2) 調査対象

静岡県内にキャンパスを置く大学・短期大学（高等専門学校 1 校を含む）21 校と浜松市内専門学校 23 校の全 44 校。

(3) 調査方法

令和 4 年 9 月 13 日より令和 4 年 10 月 12 日、郵送による配布を行い、郵送及び Web 回答により調査を実施。

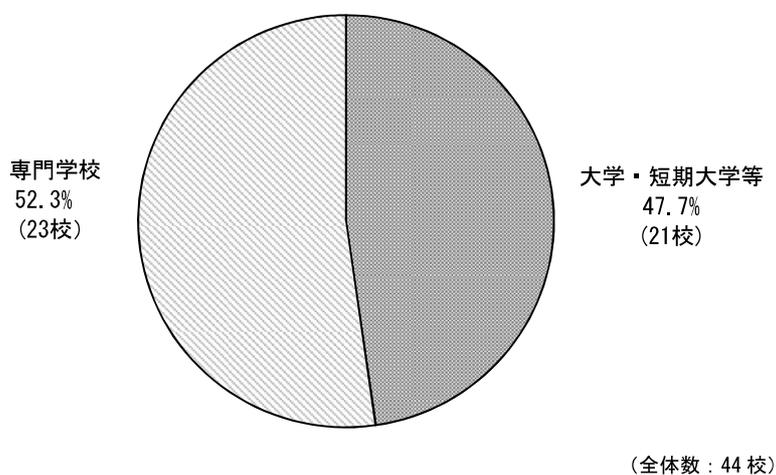
(4) 回収状況

郵送数 44 校、回収数 44 校で、回収率 100%。

(5) 属性

大学 21 校（短期大学・高等専門学校を含む）、専門学校 23 校

図表 1 大学・短期大学等及び専門学校の割合



2. 実態調査結果

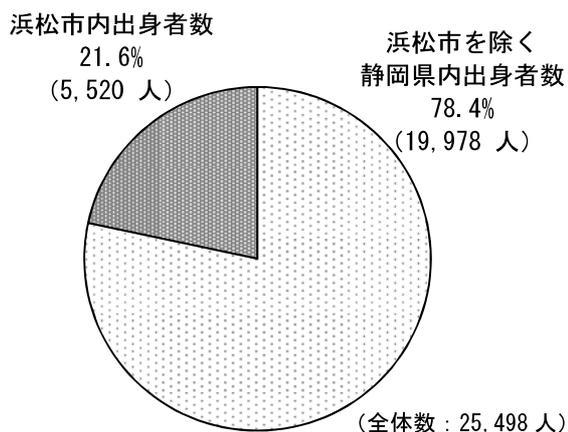
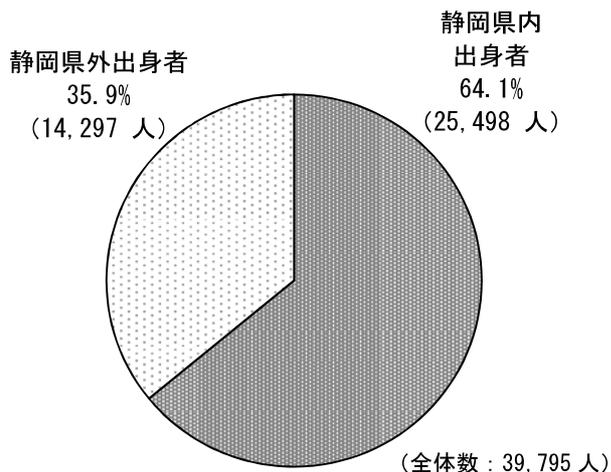
(1) 学生の状況について

●出身地別の在校生の人数

➤ 本調査における静岡県内大学等の令和4年度の在校生39,795人のうち64.1%が「静岡県内出身者」であり、そのうち78.4%が「浜松市を除く静岡県内出身者」、21.6%が「浜松市内出身者」である。

図表2-1 在校生の県内出身者の状況

図表2-2 浜松市内の出身者数

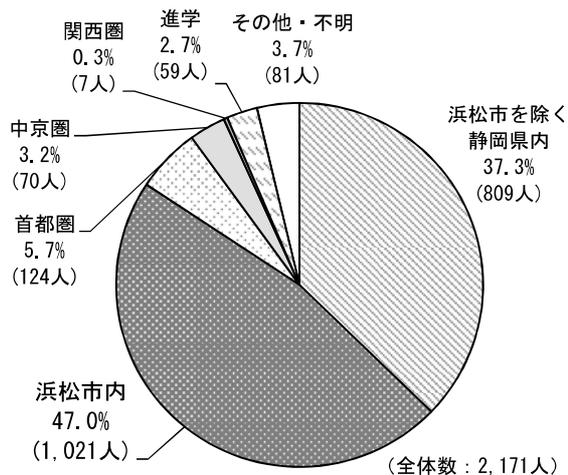
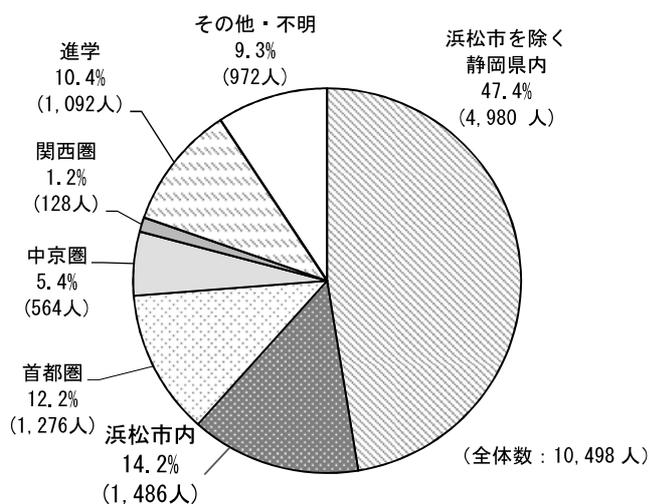


●令和3年度卒業生の就職先の地域別内訳

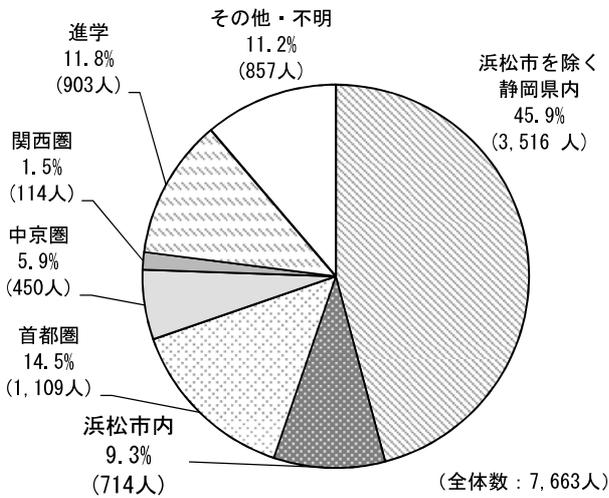
➤ 令和3年度の卒業生10,498人の就職先地域は「静岡県内」が61.6%となっており、そのうち14.2%は「浜松市内」に就職している。令和3年度に就職した「浜松市内」出身者の84.3%が「県内」に就職しており、そのうち47.0%は「浜松市内」に就職している。

図表3-1 卒業生の就職先の地域別内訳(全体)

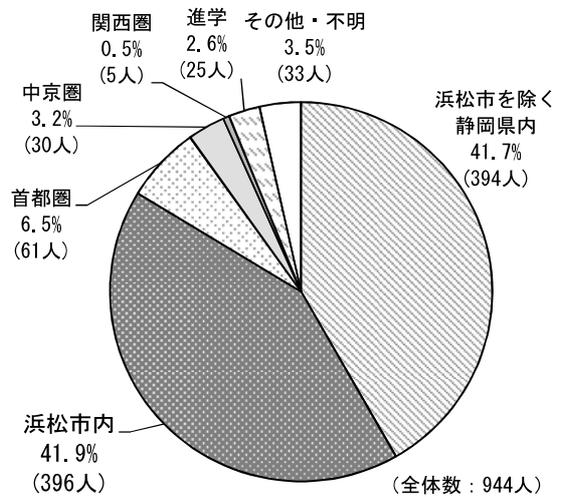
図表3-2 浜松市出身者の就職先の地域別内訳(全体)



図表 3-3 卒業生の就職先の地域別内訳(大学)



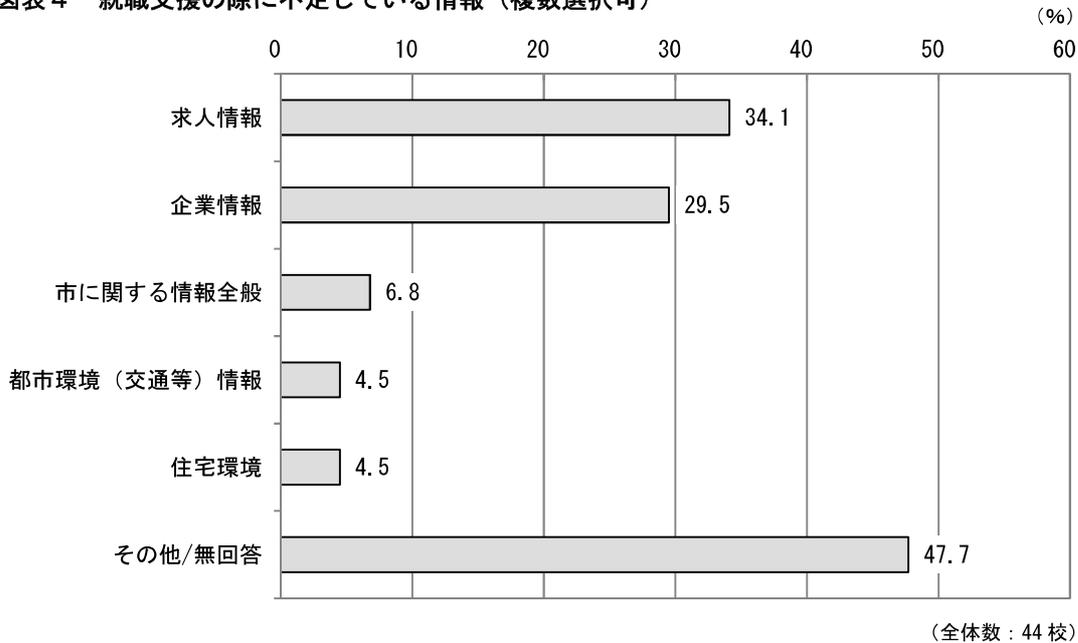
図表 3-4 浜松市出身者の就職先の地域別内訳(大学)



(2) 就職支援状況について

- 浜松市内への就職を勧める場合、不足している情報としては「求人情報」(34.1%)と「企業情報」(29.5%)を挙げている。「市に関する情報全般」、「都市環境」、「住宅環境」に関する不足感は低い。その他に関しては「特になし」の他「市内の求人情件数」、「公務員の試験案内」、「公立の幼稚園・保育園の見学等の情報」などの回答があった。

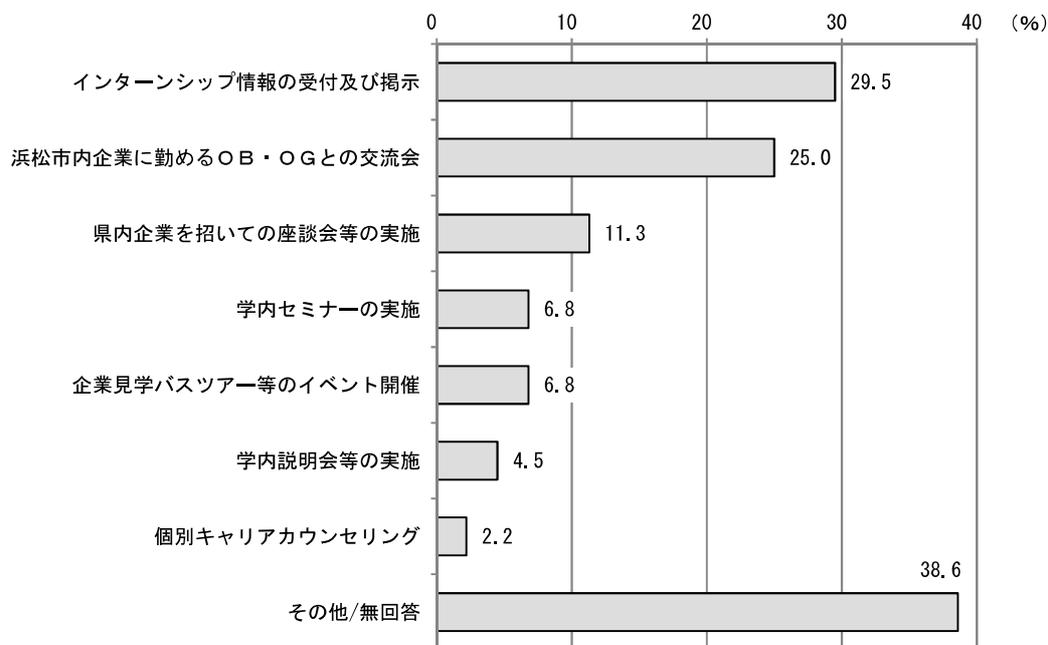
図表 4 就職支援の際に不足している情報(複数選択可)



II. 静岡県内大学・浜松市内専門学校等

- 学生の就職支援にあたり、地方自治体と連携して取り組んでいきたい事業は「インターンシップ情報の受付及び掲示」(29.5%)、次いで「浜松市内企業に勤めるOB・OGとの交流会」(25.0%)、「県内企業を招いての座談会等の実施」(11.3%)が多く挙げられている。その他に関しては「教育分野の就職支援の連携」、「資金的支援制度」、「公務員についての情報提供拡充」などの回答があった。

図表5 地方自治体と連携して取り組んでいきたい事業（複数選択可）

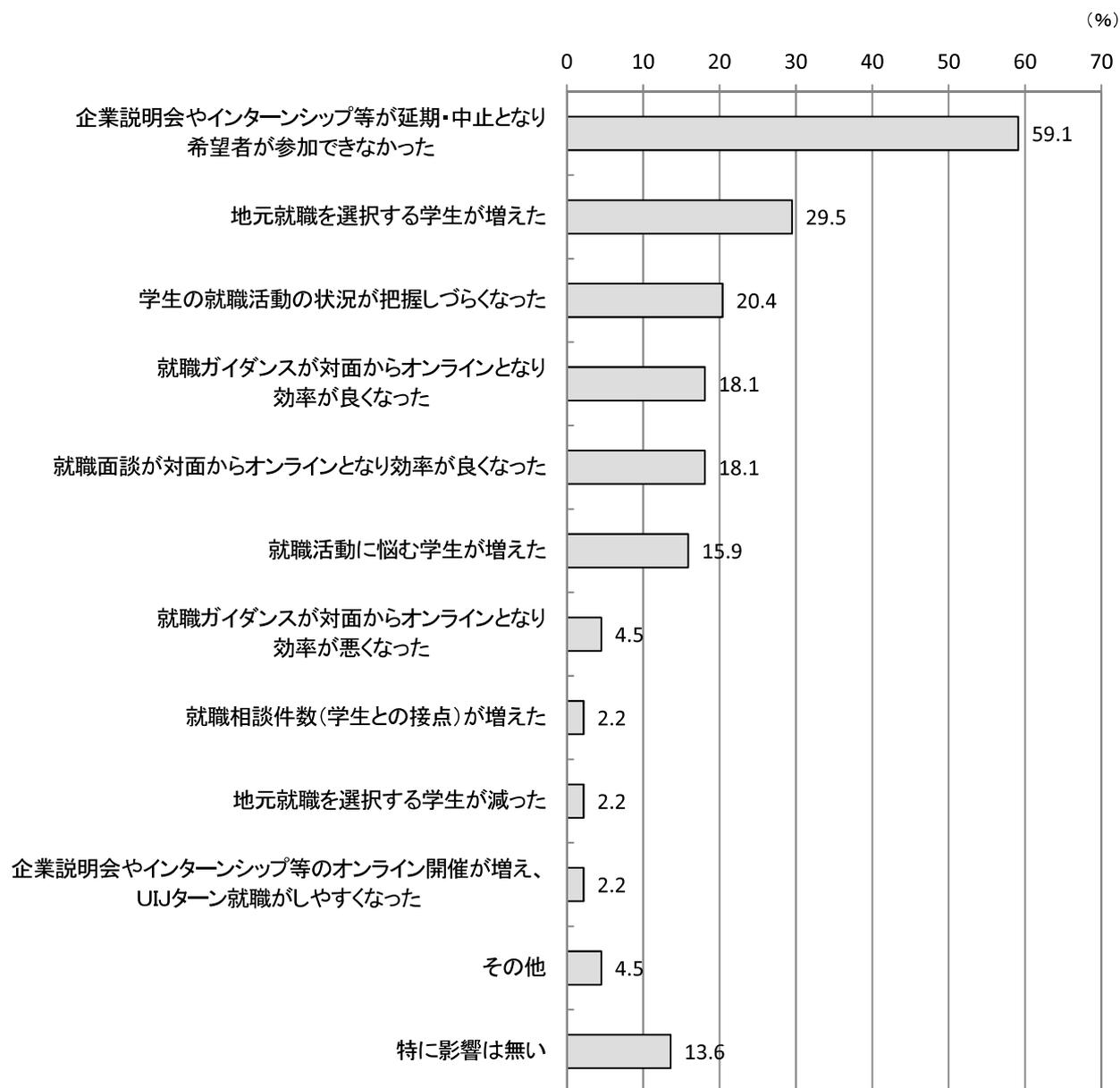


(全体数：44校)

●新型コロナウイルス感染症による影響

- 新型コロナウイルス感染症が、令和3年度中の各校の就職支援に与えた影響としては、「企業説明やインターンシップ等が延期・中止となり希望者が参加できなかった」(59.1%)が最も多く、学生の就職活動に大きな影響があったと考えられる。次いで「地元就職を選択する学生が増えた」(29.5%)、「学生の就職活動の状況が把握しづらくなった」(20.4%)が挙げられている。また、「就職ガイダンスが対面からオンラインとなり効率が良くなった」(18.1%)、「就職面談が対面からオンラインとなり効率が良くなった」(18.1%)など、対面からオンラインに切り替わったことで効率化されたことを肯定的にとらえる回答も多かった。「その他」としては、「試験のスケジュール変更により準備期間が短くなった」、「対面とオンライン両方を実施することで効率が良くなった」といった回答があった。
- 「静岡県外大学」の調査では、就職支援に与えた影響では「学生の就職活動の状況が把握しづらくなった」(50.0%)と最も多く、次いで「企業説明会やインターンシップ等が延期・中止となり希望者が参加できなかった」(35.5%)といった否定的な回答が多いなか、県内大学と同様に「就職相談が対面からオンラインとなり効率が良くなった」(33.9%)等のオンライン化が進んだことを肯定的にとらえる回答も多かった。

図表6 新型コロナウイルス感染症による影響（複数選択可）

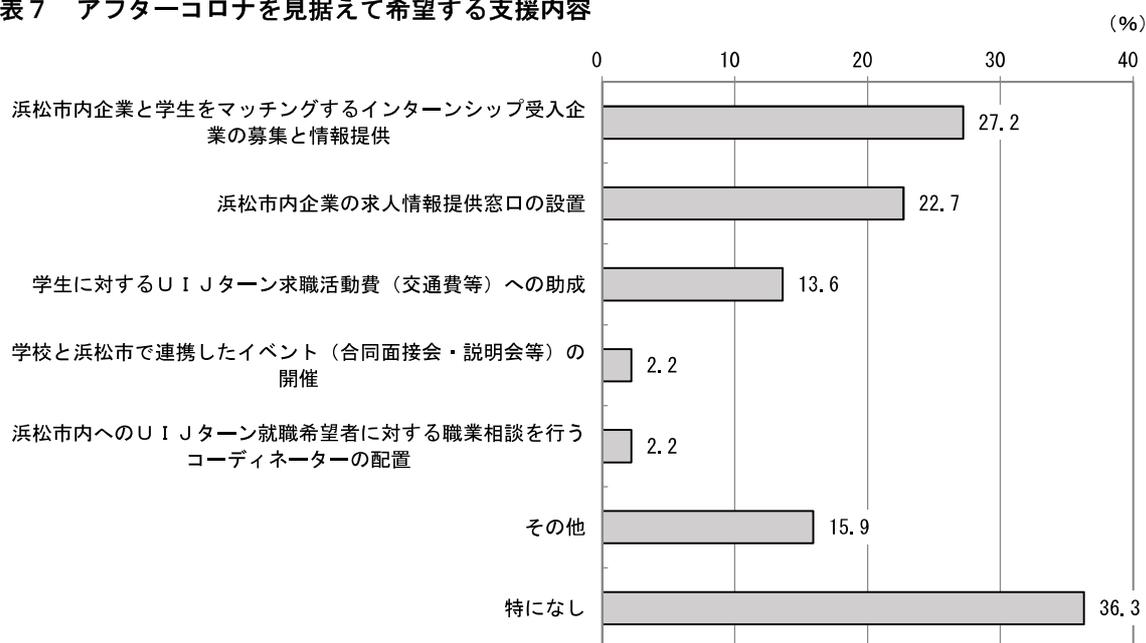


(全体数：44校)

●アフターコロナを見据えた就職支援の希望

- 各校が希望するアフターコロナを見据えた就職活動の支援内容は「浜松市内企業と学生をマッチングするインターンシップ受入企業の募集と情報提供」(27.2%)が一番多く、インターンシップを重要視する傾向が伺えた。次いで「浜松市内企業の求人情報提供窓口の設置」(22.7%)、「学生に対するUIJターン求職活動費(交通費等)への助成」(13.6%)が多かった。「その他」に関しては、「中小でも安定した企業の採用情報」、「活動早期化への歯止め」、「幅広い情報提供」などが挙げられた。
- 「静岡県外大学」の調査では、アフターコロナを見据えた就職活動支援の希望としては「学生に対するUIJターン求職活動費(交通費等)への助成」(45.2%)と最も多く、次いで「浜松市内企業と学生をマッチングするインターンシップ受入企業の募集と情報提供」(37.1%)、「浜松市内企業求人情報の提供窓口の設置」(16.1%)の順となった。

図表7 アフターコロナを見据えて希望する支援内容



(全体数: 44校)

3. ヒアリング報告

アンケート内容を基に静岡県内大学へヒアリングを実施した内容について、以下のとおり報告を行う。

(1) 令和6年3月卒業予定者（現3年生）の状況について

コロナ禍が続き、企業の採用活動においてオンライン対応が増えるなどの就職活動の変化や人手不足の継続及び企業の採用意欲の高まりから企業の採用活動が早期化し、学生の就職活動の取り組み時期においても早期化の傾向にある。2年生の秋頃までには企業研究を開始する学生が増えている。

(2) 卒業生の就職先・地域別内訳

コロナ禍が続いたことにより、他地域への移住を伴う就職への抵抗感が強まり、地元の学生は従来にも増して地元志向が強くなった。また、県外からの学生も地元に戻る傾向が強まりはしたものの、都市圏以外の出身者は大学周辺の企業に就職することも増えるなど、学生の出身地域によっても傾向が別れた。

(3) 学生の就職に対する考え方

(ア) 最近のトレンド

・勤務地

地元志向の高まりによって、県外出身者においては出身地域への就職意識も強まった。就職を希望する業種によっては、地元での受け皿が限定的であるため、都市圏を主体に学生の希望する職種の企業を選択する傾向もみられる。

・企業規模

コロナ禍によって安定性や年収を重視する傾向が強まった結果、依然として大手志向が強い。学生数の減少により、大手に就職しやすくなったことも影響している。中小規模でも地元有力企業の求人や自社PRも増えているため選択肢は広がっているが、中小規模でも知名度や一定の規模感が優先される傾向は強い。

・希望業種・職種

業種は製造業や商社、小売業、サービス業に加え、公務員志向も強い。職種は総合職、営業職、事務職が多い。理工系やデザイン系学科においては業種としてIT関連、職種ではエンジニア志望の学生も多い。医療・福祉・保育学科はそれぞれの専攻に直結した業種や職種が大半となる。

・勤務条件

福利厚生、休日、給与のほか、その企業での働きがいを求める傾向も強い。

・仕事とプライベートの両立

多様な働き方やワークライフバランスへの意識は高まっており、しっかり働いて、しっかりと私生活を充実させたいという学生が増えている。

(イ) 助言者の影響

親の影響は強い。コロナ禍でオンライン上での企業側の情報発信が増える中、学生の企業研究に対する情報量は増えている一方、対面で企業側と接触する機会が減少していたことから、生の声として、身近な社会人に相談する傾向は強まっている。

(4) 静岡県外出身者の就職傾向

地元志向が強まる中、都市圏の出身者は地元や地元周辺に戻って就職する傾向が強まっているが、都市圏出身以外の学生は大学周辺や静岡県内で就職先を探すケースが増えている。

(5) 他県の自治体からの働きかけの有無について

長野県からの PR が強いと感じている大学が複数あるほか、静岡県西部地区の大学においては、愛知県内の自治体が積極的であるとの意見が聞かれた。

(6) 浜松市内の企業への就職を後押しするための有効手段

大手企業に限らず、浜松市内にある優良企業の情報を広く学生へ周知することが必要という意見が多い。中小企業側の情報発信や求人は増えているが、学生の意識が中小企業にまで十分に及んでいない。また、製造業の集積が多い地域であるが、IT系企業の誘致など、幅広い業種の産業集積も必要との意見がある。

(7) その他

Uターン就職への意識付けとして、浜松市内の産業や企業について、高校生など早い段階で情報提供を行うなどの啓蒙活動が必要といった意見が聞かれる。また、産業だけでなく、地域としての魅力を一層高めることを求める声が聞かれた。

Ⅲ. 静岡県外大学

1. 実態調査概要

(1) 調査目的

UIJ ターン就職の促進による若者の転入増加と、地元企業を担う人材及び労働力を確保するために県外大学から基礎データを収集し、今後の事業施策に活用することを目的とする。

(2) 調査対象

「UIJ ターン就職に関わる浜松市内高校実態調査」の結果から、卒業生の進学者数の上位校 62 校を選定した。

(3) 調査方法

令和 4 年 9 月 13 日～10 月 12 日、郵送による配布・郵送・Web 回答による回収により調査を実施。

(4) 回収状況

郵送数 62 大学、回収数 62 大学。回収率 100%。

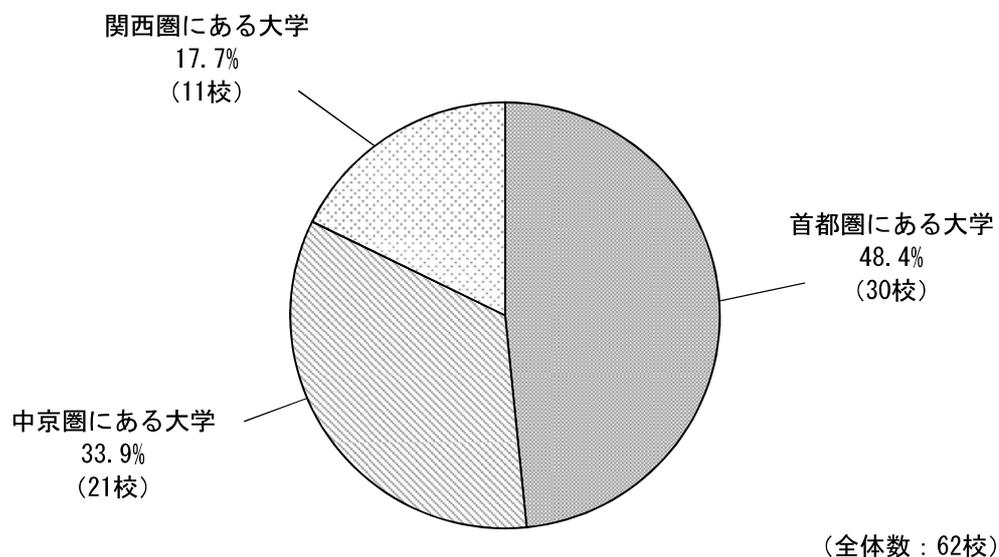
(5) 属性

首都圏にある大学 30 大学

中京圏にある大学 21 大学

関西圏にある大学 11 大学

図表 1 回収地域の内訳



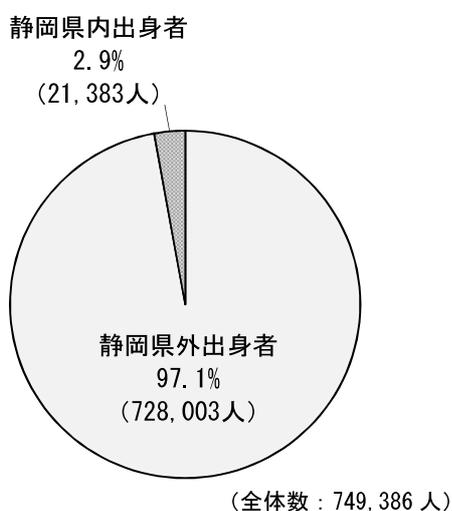
2. 実態調査結果

(1) 静岡県外大学における学生の状況について

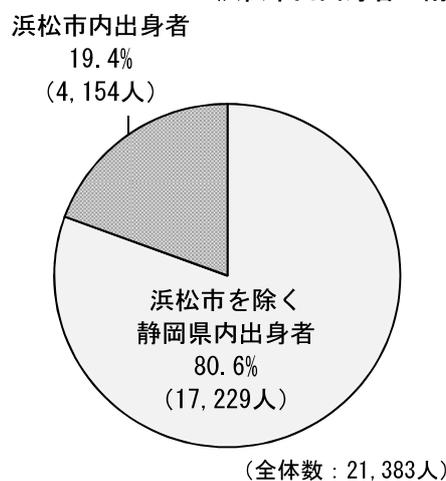
●学年別、在校生徒数、及び静岡県、浜松市出身の学生数

- 回答のあった大学の令和3年度の1年生から4年生の在校生の749,386人のうち、「静岡県内出身者」は21,383人(2.9%)である。「静岡県内出身者」のうち、「浜松市内出身者」は4,154人(19.4%)となる。
- 浜松市出身者の進学した大学の所在地別の割合で見ると、「中京圏」(51.5%)、「首都圏」(34.9%)、「関西圏」(13.6%)である。

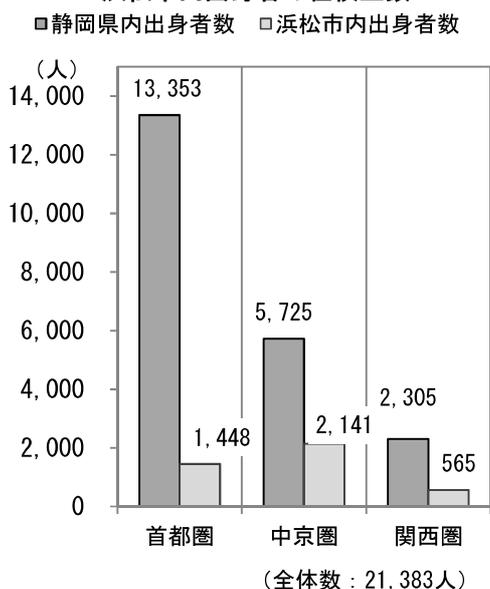
図表2-1 在校生の出身地



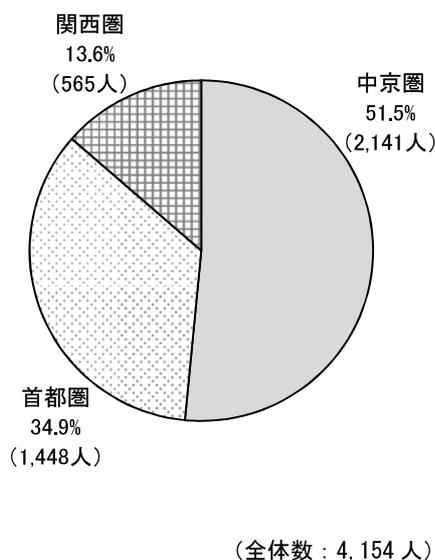
図表2-2 静岡県内出身在校生のうち、浜松市内出身者の割合



図表2-3 大学地域別の静岡県内、浜松市内出身者の在校生数



図表2-4 浜松市出身者が進学した県外大学の地域別割合

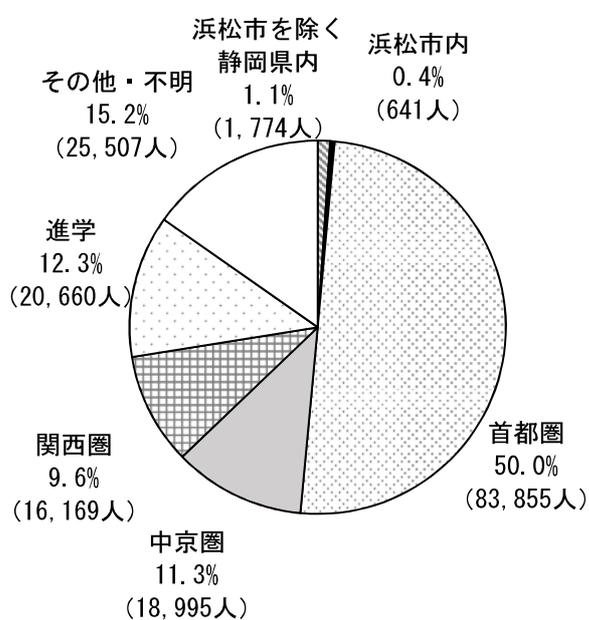


(2) 就職の傾向について

●令和3年度卒業生の就職先の地域別内訳

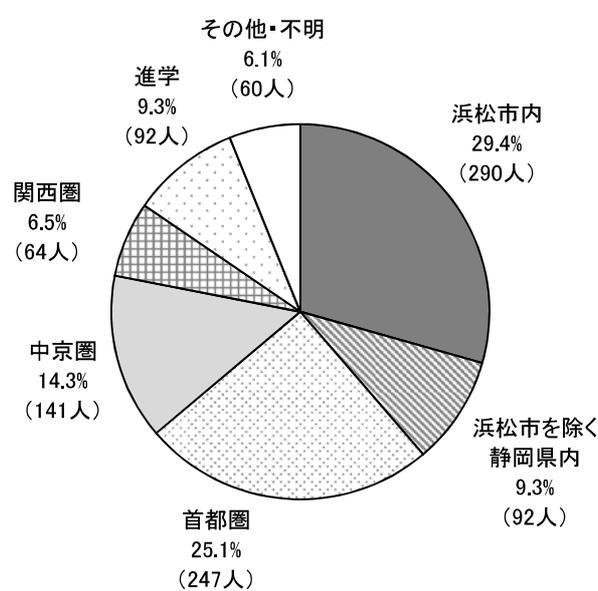
- 回答のあった大学の令和3年度卒業生の就職先地域別内訳をみると167,601人のうち、2,415人(1.4%)が「静岡県内」に就職している。
- 「浜松市内出身者」986人の就職先の地域をみると、「浜松市内」(29.4%)、「浜松市を除く静岡県内」(9.3%)、静岡県以外の就職地域に関しては、「首都圏」(25.1%)、「中京圏」(14.3%)、「関西圏」(6.5%)である。

図表3-1 卒業生の就職先の地域別内訳



(全体数 : 167,601人)

図表3-2 浜松市出身者の就職先の地域別内訳



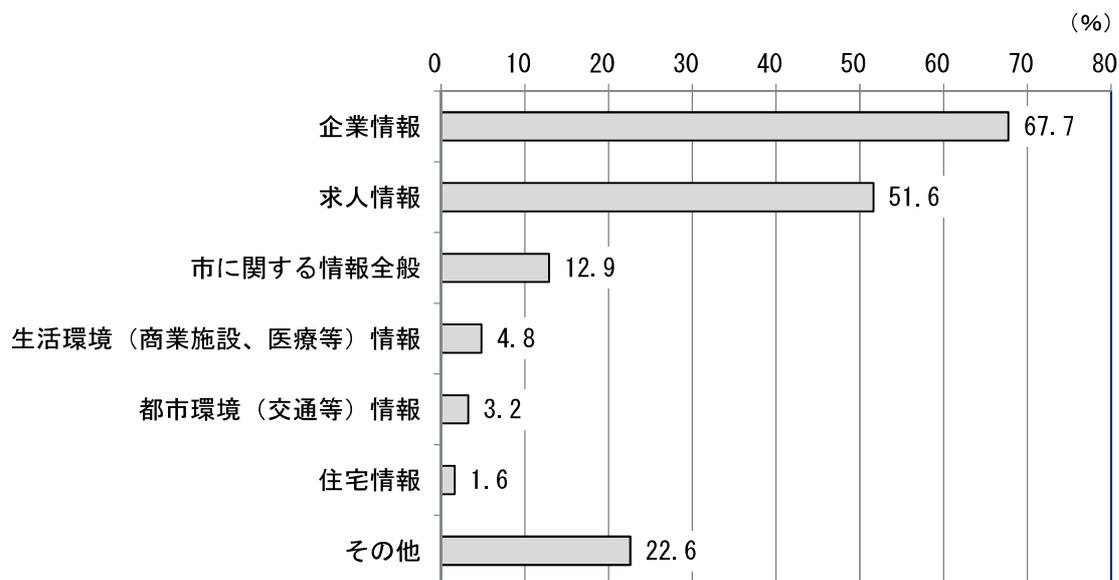
(全体数 : 986人)

(3) 就職支援状況について

●学生に浜松市内への就職を勧める場合、不足している情報

- 浜松市内へ就職を勧める場合、不足している情報は、「企業情報」(67.7%)、「求人情報」(51.6%)が上位を占めている。「市に関する情報」、「生活環境(商業施設、医療等)情報」、「都市情報(交通等)情報」、「住宅情報」について不足感は低い。「その他」としては、「U・Iターンするメリット」、「第2新卒、社会人の転職、浜松企業とリモートベースの兼業・副業」、「各種支援制度」、「経済的支援制度の案内」、「金融・JAの情報が欲しい」といった回答があった。

図表4 就職支援の際に不足している情報(複数回答)

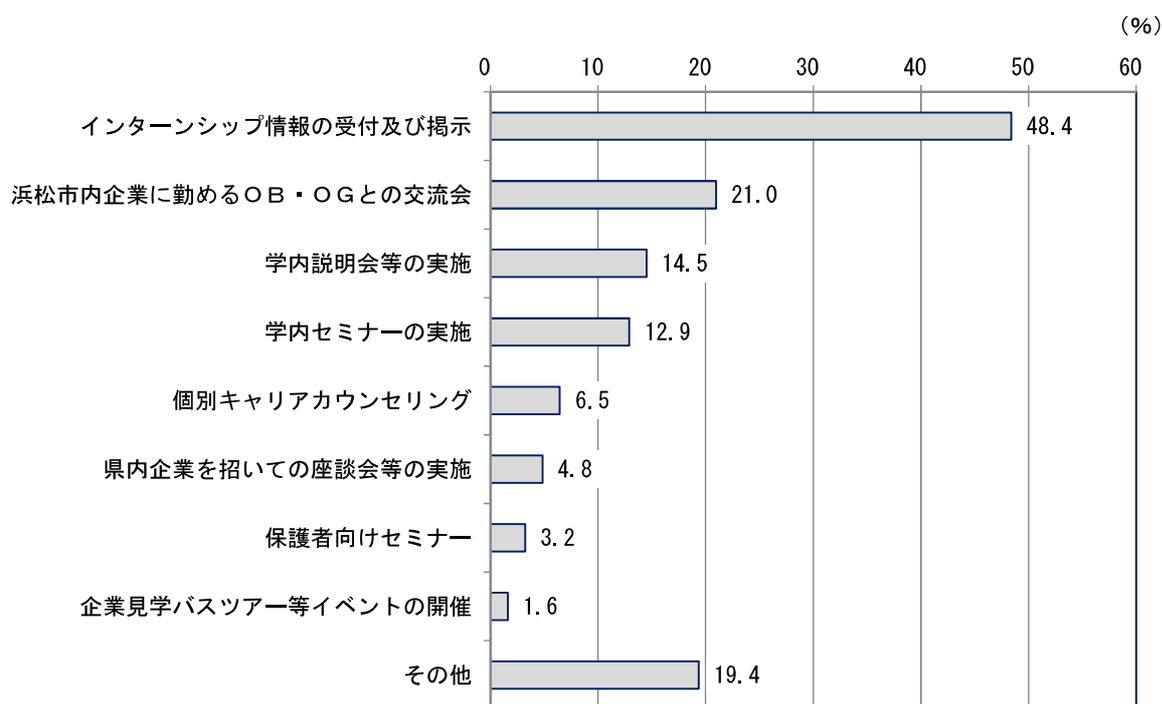


(全体数 : 62 校)

●学生への就職支援にあたり、地方自治体と連携して取り組んでいきたい事業

➤ 学生への就職支援で地方自治体と連携して取り組んでいきたい事業としては、県内大学同様、「インターンシップ情報の受付及び掲示」(48.4%)をあげる大学が多い。次いで「浜松市内企業に勤めるOB・OGとの交流会」(21.0%)、「学内説明会等の実施」(14.5%)、「学内セミナーの実施」(12.9%)の順となる。「その他」としては、「Uターン説明会」、「社会人になった後、心のよりどころとなる浜松市のグループLINEの創設と案内」といった回答があった。

図表5 学生への就職支援にあたり、地方自治体と連携して取り組んでいきたい事業（複数回答）

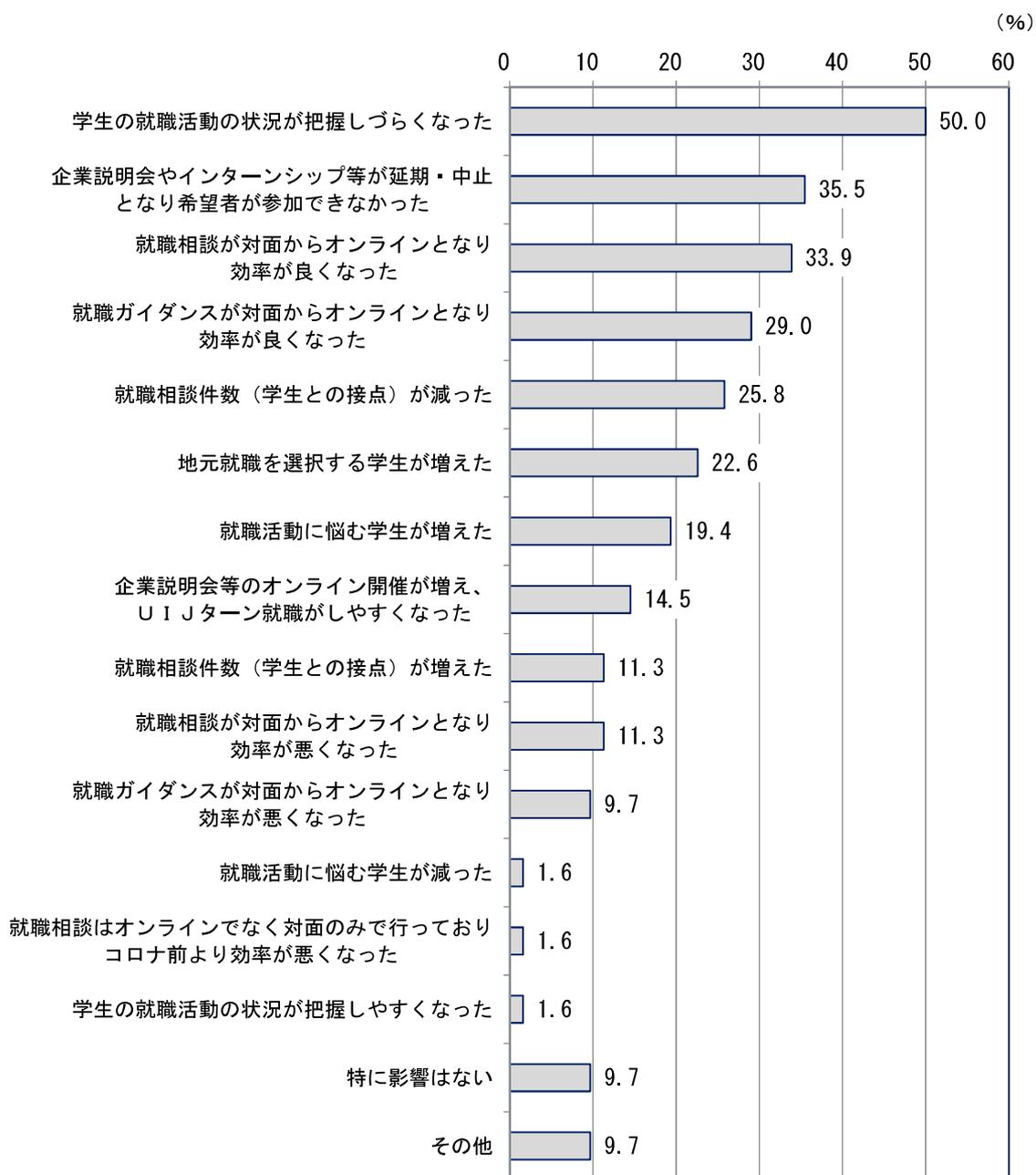


(全体数：62校)

●新型コロナウイルス感染症が、令和3年度中の就職支援に与えた影響

- 新型コロナウイルス感染症が、令和3年度中の就職支援に与えた影響としては、「学生の就職活動の状況が把握しづらくなった」(50.0%)と最も多く、授業のオンライン化による学生の登校日数減少の影響が伺える。次いで「企業説明会やインターンシップ等が延期・中止となり希望者が参加できなかった」(35.5%)といった否定的な回答が多いなか、「就職相談が対面からオンラインとなり効率が良くなった」(33.9%)等のオンライン化が進んだことを肯定的にとらえる回答も多かった。「その他」としては、「オンラインでの相談が増えた」、「就職相談はオンライン型と対面型の選択制を導入し、コロナ下での相談環境を向上できた」、「就職相談以外のキャリアセンター主催イベントの参加者が減った」、「面談のオンライン化、ガイダンスのオンデマンド化など、新たな支援方法が増えた」、「就職ガイダンスが対面からオンラインとなったことについては、効率が良くなった反面参加する学生は減少した」、「安易な内定、安易な内定辞退」、「オンラインのツールが充実したことで学生の選択肢が増えた」といった回答があった。
- 静岡県内大学及び浜松市内専門学校への調査で新型コロナウイルス感染症が令和3年度の各校の就職支援に与えた影響で最も大きかったものは、「企業説明会やインターンシップ等が延期・中止となり希望者が参加できなかった」(59.1%)であり、静岡県外大学への調査とは異なる結果となった。

図表6 新型コロナウイルス感染症が、令和3年度中の就職支援に与えた影響
(複数回答)

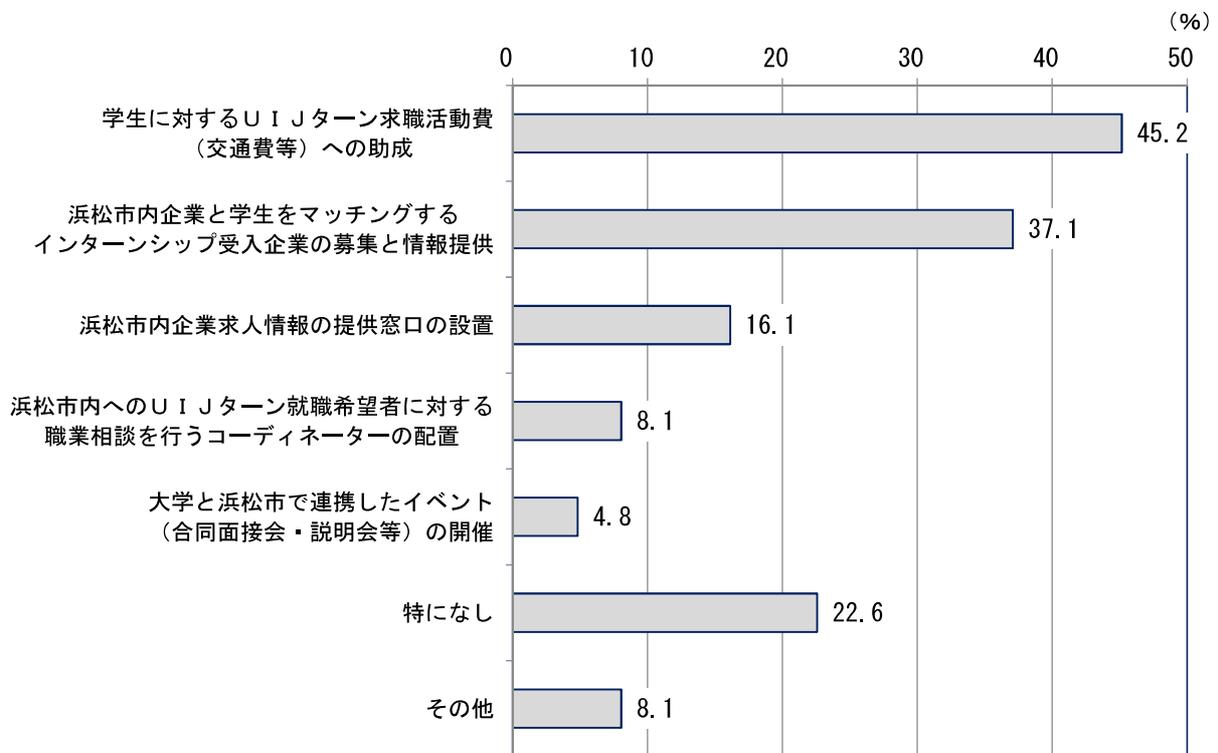


(全体数：62校)

●アフターコロナを見据えた就職活動支援の希望

- アフターコロナを見据えた就職活動支援の希望としては「学生に対する UIJ ターン就職活動費（交通費等）への助成」（45.2%）と最も多く、次いで「浜松市内企業と学生をマッチングするインターンシップ受入企業の募集と情報提供」（37.1%）、「浜松市内企業求人情報の提供窓口の設置」（16.1%）の順となった。「その他」においては、「浜松市内の企業情報の提供」、「1、2年生からキャリア支援の実施」、「学生がよく利用する大手就活サイト等への情報一元化をしてほしい」といった回答があった。
- 「静岡県内大学及び浜松市内専門学校」への調査でアフターコロナを見据えた就職活動支援の希望として最も多かったのは「浜松市内企業と学生をマッチングするインターンシップ受入企業の募集と情報提供」（27.2%）であり、次いで「浜松市内企業の求人情報提供窓口の設置」（22.7%）となっており、静岡県外大学で最も多かった「就職活動費（交通費等）への助成」とは異なる結果となった。

図表7 アフターコロナを見据え、就職活動支援の希望（複数回答）



（全体数：62校）

3. ヒアリング報告

アンケート内容を基に静岡県外大学にヒアリングを実施した内容について、以下のとおり報告を行う。

(1) 令和6年3月卒業予定者（現3年生）の状況について

コロナ禍において企業の説明会や面接のオンライン化など、新型コロナウイルス感染拡大前と比較して、企業の採用活動の方法に変化が見られた。学生の就職希望先については、地元志向が高まるなどの傾向がみられる。また、大手企業の採用活動が早期化したことにより、学生の就職活動を意識する時期が早まっている。

(2) 学生の就職に対する考え方

(ア) 最近のトレンド

・勤務地

長らくコロナ禍において、地元志向が高まり、出身地域への就職意識も強まった。学生の親族の意向なども影響している。一方、出身地の企業については、大手企業以外の情報が不足しがちであり、首都圏に本社のある企業と並行して就職活動を行う学生が引き続き多い。Uターン就職を促進するためには、高校生の段階から地元産業や企業に関心を高めるような仕組の必要性を感じる。

・企業規模

地元中小企業からの情報発信は増えているが、大手企業の採用意欲も強いいため、地元企業の中小企業にまで企業研究が及んでいない傾向がある。理系学生においては、大手には属さない地元の有力企業まで視野を広げる傾向もあるが、これも一定の知名度を持った企業に限定されている。

・希望業種・職種

総合職、事務・企画、公務員・公共サービス、IT・通信の人気の高い。

・勤務条件

福利厚生、休日・余暇を重視する傾向は強まっており、この結果、福利厚生が充実している大手企業を希望する学生が多くなっている。地元志向の学生においては、勤務地、転勤の有無などを重視する傾向も強い。

・仕事とプライベートの両立

しっかりと休日を取得できプライベートの時間をしっかりと確保できることを望む学生は多く、ワークライフバランスのよい企業を好む傾向は強い。

(イ) 助言者の影響

親の影響は強く、コロナ禍においては、企業との接触もオンライン主体に切り替わり、情報が偏りがちとなる中、身近な社会人に生の声を求める傾向も強まっている。また、身近なところとしては、ゼミや部活・サークル、親しい先輩などに相談する傾向は変わらない。

(3) 静岡県内企業からのアプローチについて

(ア) 求人情報の説明

コロナ禍で OB・OG、リクルーターによる大学への訪問が出来なかったため、必要に応じてオンライン等で実施した。

(イ) 学内イベントへの参加

これまでに学内ガイダンスへの参加実績がある企業が優先的となるが、コロナ禍では、オンライン対応が主体となった。対面、オンラインを問わず、OB・OG の参加が学生の参加率アップに繋がるため、OB・OG との連携は重視している。

しかし、コロナ前と比較して学生のイベントへの参加人数は減少傾向にある。

(4) 学生からの就職相談の中で、出身地または大学所在地近隣とどちらを勧めるか

大学側からどちらを勧めるということはなく、学生本人の希望を優先している。

(5) 貴校と浜松市で連携してできる事業

インターンシップ情報に関する学生への発信の方法や浜松市内企業に勤める OB・OG との交流会に関する分野が可能性としてある。また、浜松市単独というよりも、静岡県や中部地域といった「広域」での連携事業を求める声も多かった。

(6) その他

U ターン就職への意識付けとして、高校生までに地元企業の魅力や優位性の他、元々生活していただけない地域の実感できない地域の魅力や U ターン就職へのメリット、支援制度などを早くから啓蒙しておく必要との意見が多かった。

IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生

1. 実態調査概要

(1) 調査目的

本調査は、UIJ ターン就職の促進による若者の転入増加と、地元企業を担う人材及び労働力を確保するための基礎的データを浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生から収集し、今後の事業施策に活用することを目的として実施した。

(2) 調査対象

浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生

(3) 調査方法

令和4年9月9日～10月14日、就職関連メールマガジンでの告知による Web 調査及び就職イベントでの調査票配布によるアンケート調査

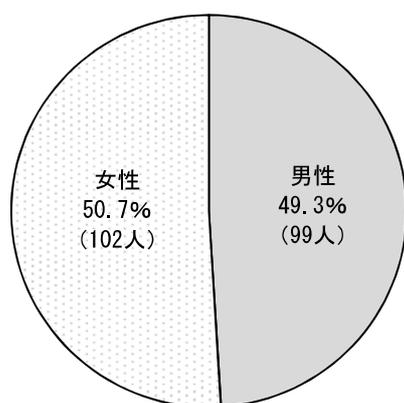
(4) 回収状況

回答総数 201 名（男性 99 名、女性 102 名）

(5) 属性

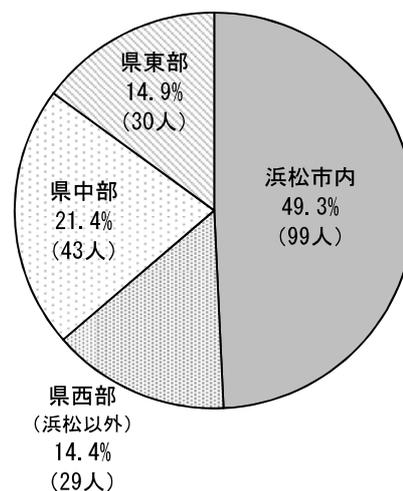
調査回収学生の属性は次のとおりである。

図表 1-1 性別



(全体数 : 201 人)

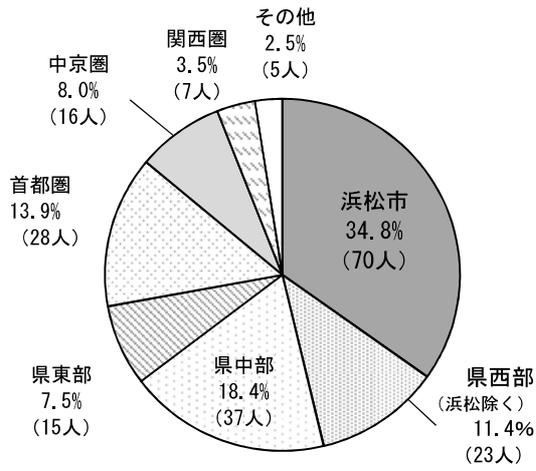
図表 1-2 出身地



(全体数 : 201 人)

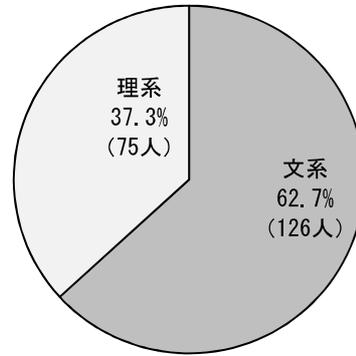
IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生

図表 1-3 居住地



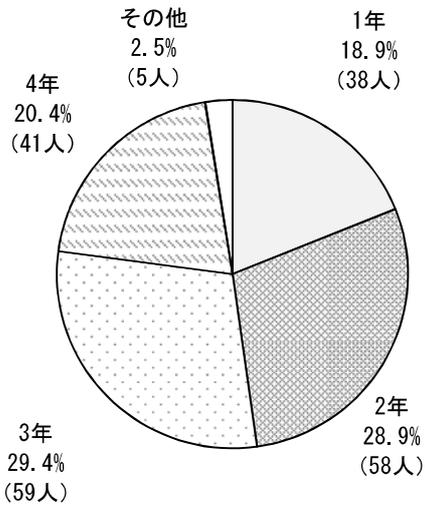
(全体数 : 201 人)

図表 1-4 文系/理系



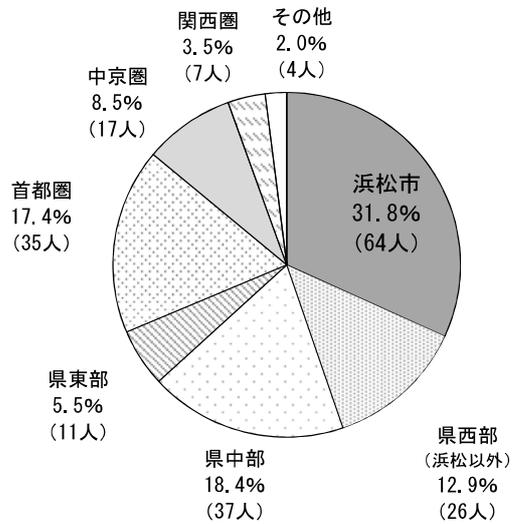
(全体数 : 201 人)

図表 1-5 学年



(全体数 : 201 人)

図表 1-6 学校所在地



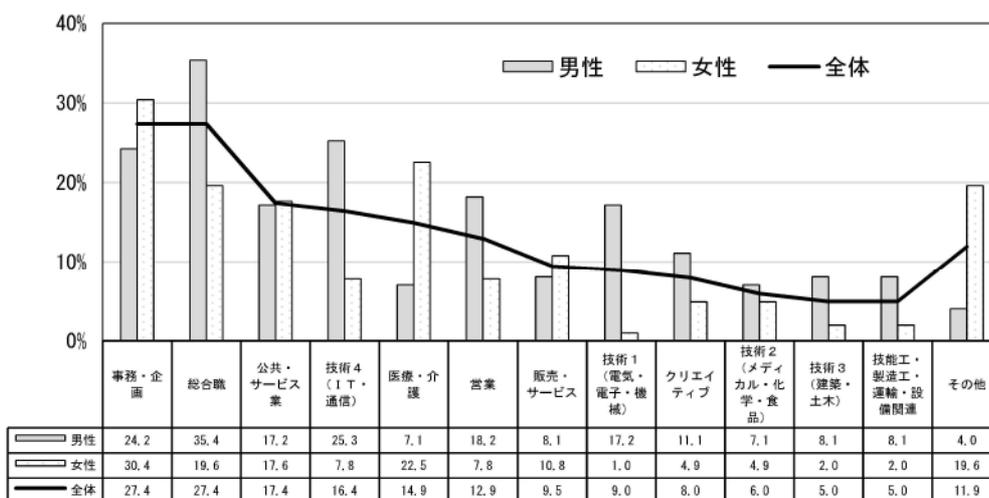
(全体数 : 201 人)

2. 実態調査結果

(1) 希望する職種について

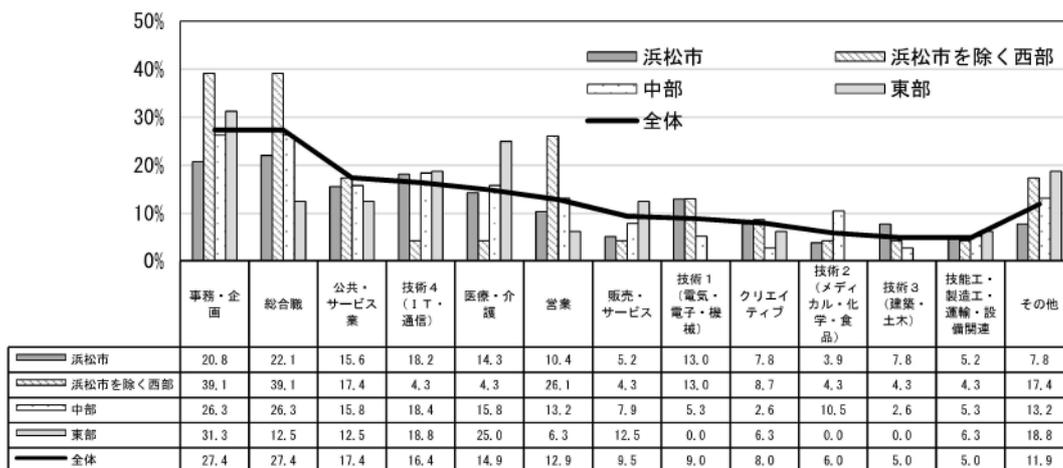
希望職種について割合が最も高いのは、「事務・企画」と「総合職」(27.4%)である。次いで、「公共・サービス業」(17.4%)、「IT・通信」(16.4%)と続く。男性では「総合職」(35.4%)、女性では「事務・企画」(30.4%)となっている。居住地別でみると、浜松市では「総合職」(22.1%)の希望割合が最も高く、他の地域と比較して「技術1(電気・電子・機械)」や「技術3(建築・土木)」が高くなっている。

図表2-1 希望職種(性別)(複数回答可)



(全体数 201 人、男性 99 人、女性 102 人)

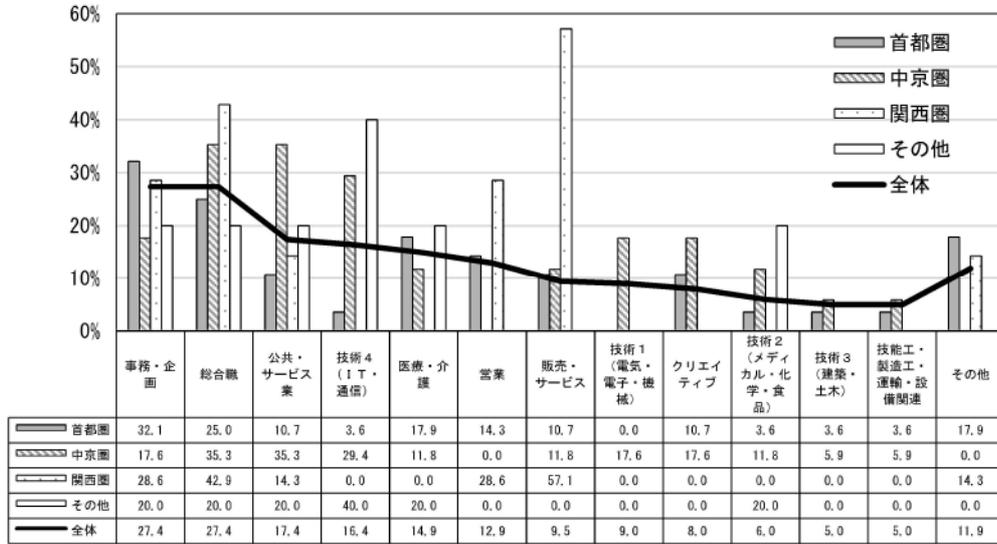
図表2-2 希望職種(居住地別・県内)(複数回答可)



{全体数：201人、県内145人(浜松市70人、浜松市を除く県西部23人、県中部37人、県東部15人)}

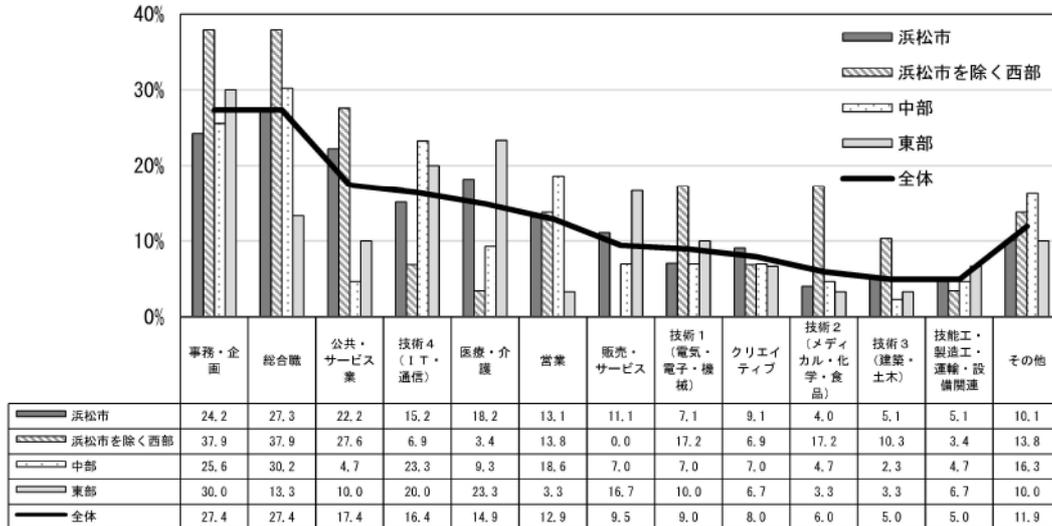
IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生

図表 2-3 希望職種（居住地別・県外）（複数回答可）



{全体数：201人、県外56人（首都圏28人、中京圏16人、関西圏7人、その他5人）}

図表 2-4 希望職種（出身地別）（複数回答可）

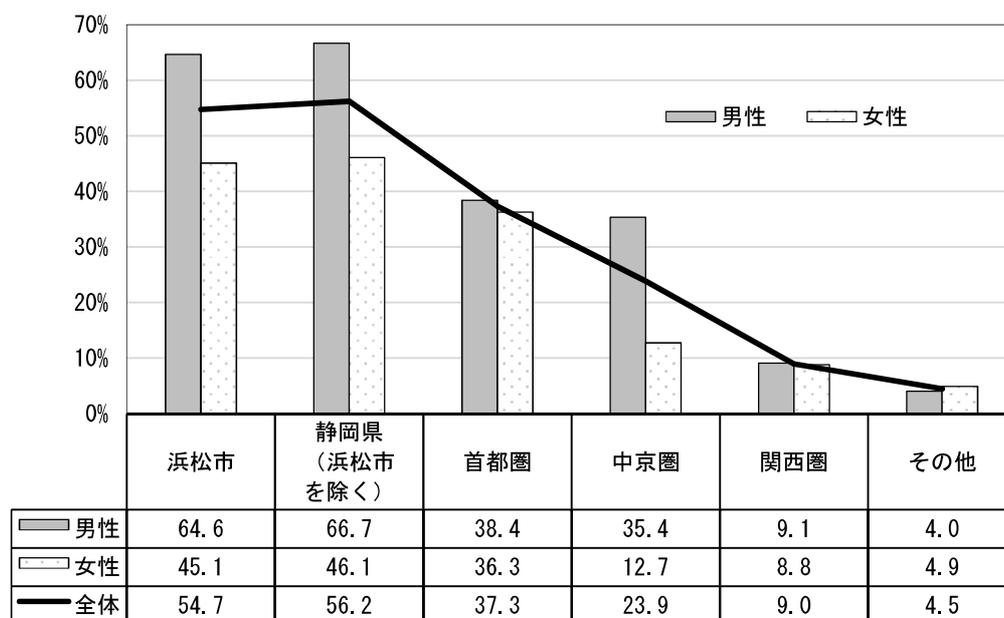


(全体数：201人、浜松市99人、浜松市を除く県西部29人、県中部43人、県東部30人)

●就職を希望する地域

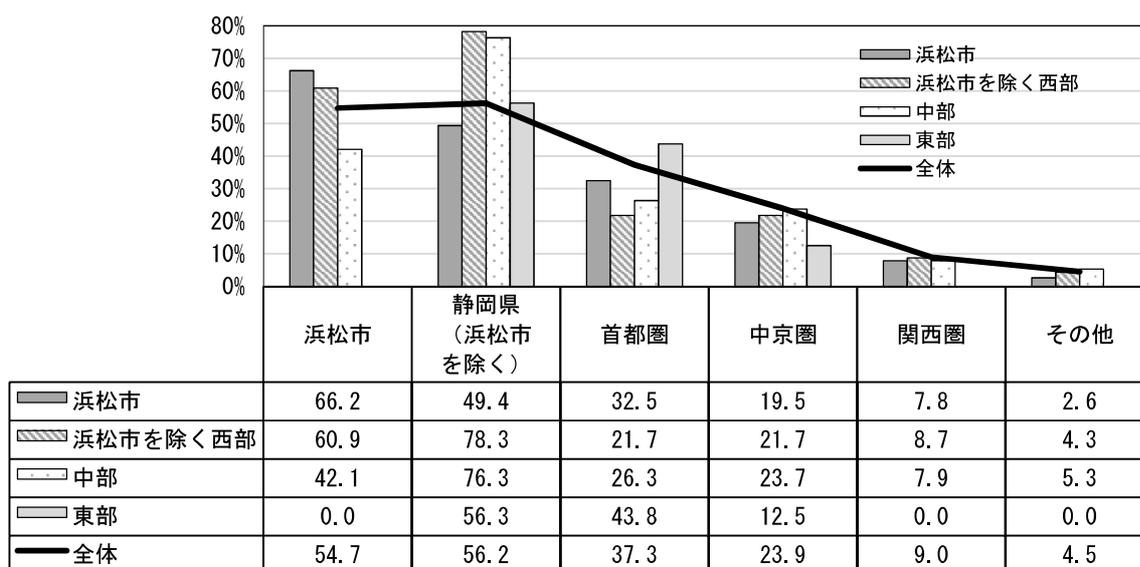
➤就職を希望する地域は、静岡県(浜松市を除く)が56.2%と最も高く、次いで浜松市(54.7%)、首都圏(37.3%)と続く。ただし、居住地域や出身地域別で見ると、浜松市内居住者の66.2%、浜松市出身者の71.7%が浜松市での就職を希望しており、全体よりも高い数値が出ている。

図表3-1 就職希望地(性別)(複数回答可)



(全体数：201人、男性99人、女性102人)

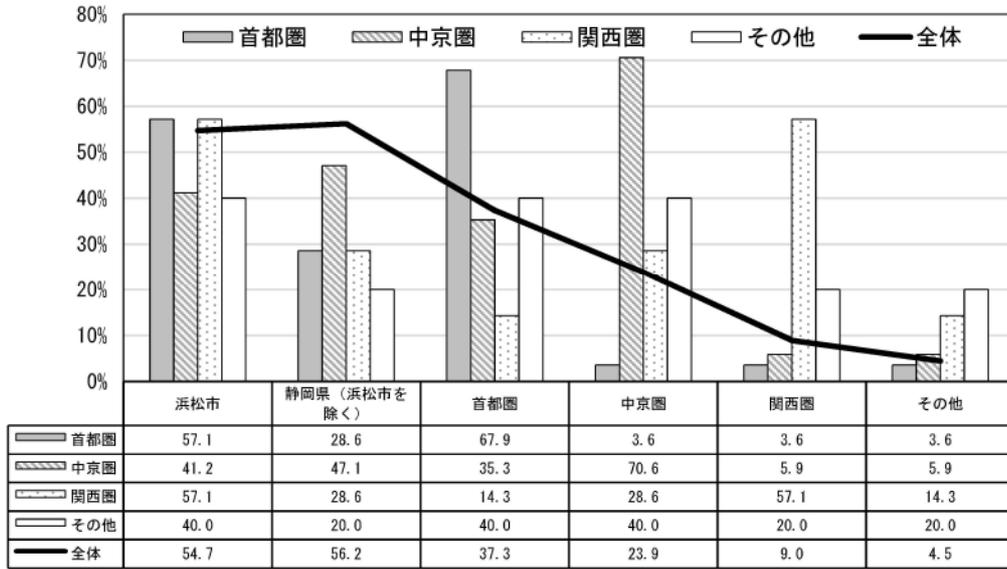
図表3-2 就職希望地(居住地別・県内)(複数回答可)



{全体数：201人、県内145人(浜松市70人、浜松市を除く県西部23人、県中部37人、県東部15人)}

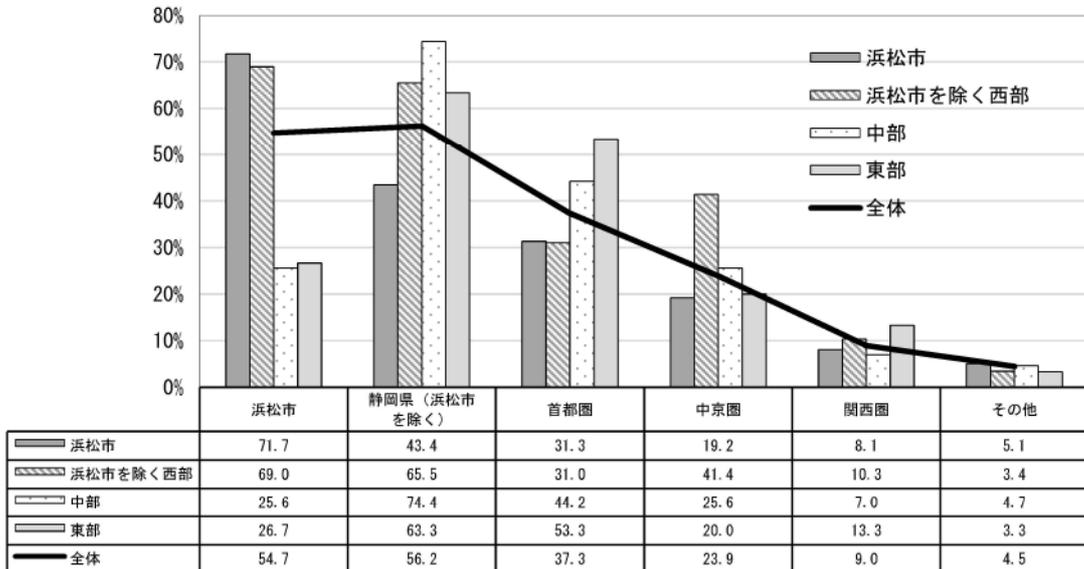
IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生

図表 3-3 就職希望地（居住地別・県外）（複数回答可）



{全体数：201人、県外56人（首都圏28人、中京圏16人、関西圏7人、その他5人）}

図表 3-4 就職希望地（出身地域別）（複数回答可）

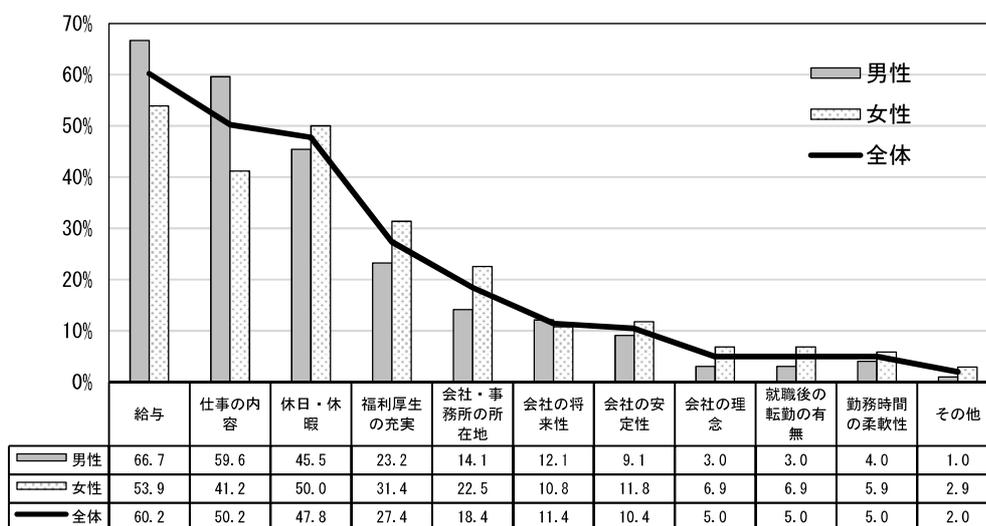


(全体数：201人、浜松市99人、浜松市を除く県西部29人、県中部43人、県東部30人)

●就職先選択時の重視点

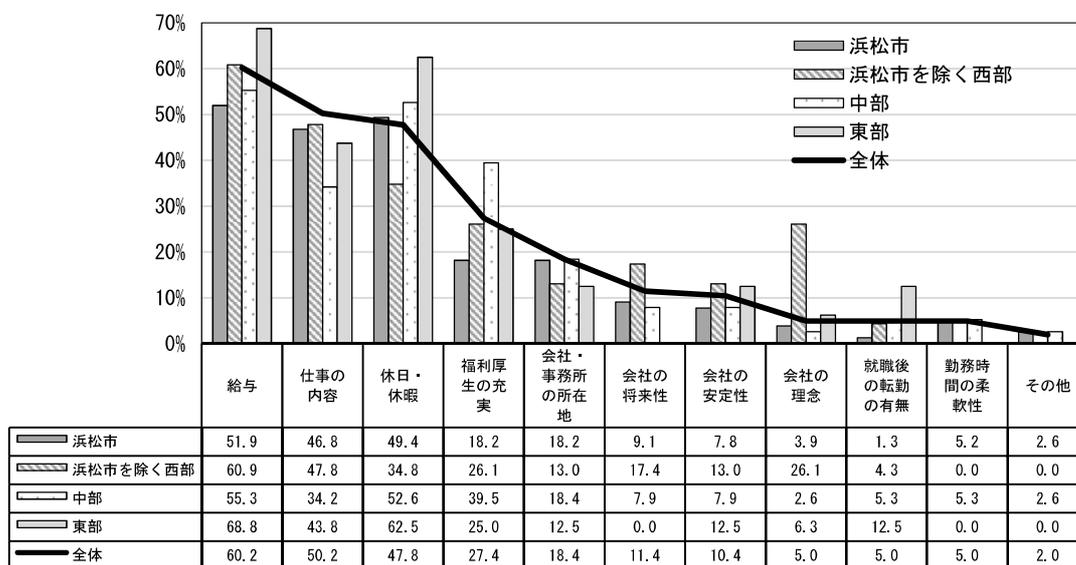
➢就職先の重視点について最も割合が高いのは、「給与」(60.2%)である。次いで、「仕事の内容」(50.2%)、「休日・休暇」(47.8%)と続く。性別でも、男女共に「給与」の希望割合が最も高く、浜松市出身者や居住者も「給与」が最も高い結果となった。

図表4-1 重視点(性別)(複数回答可)



(全体数：201人、男性99人、女性102人)

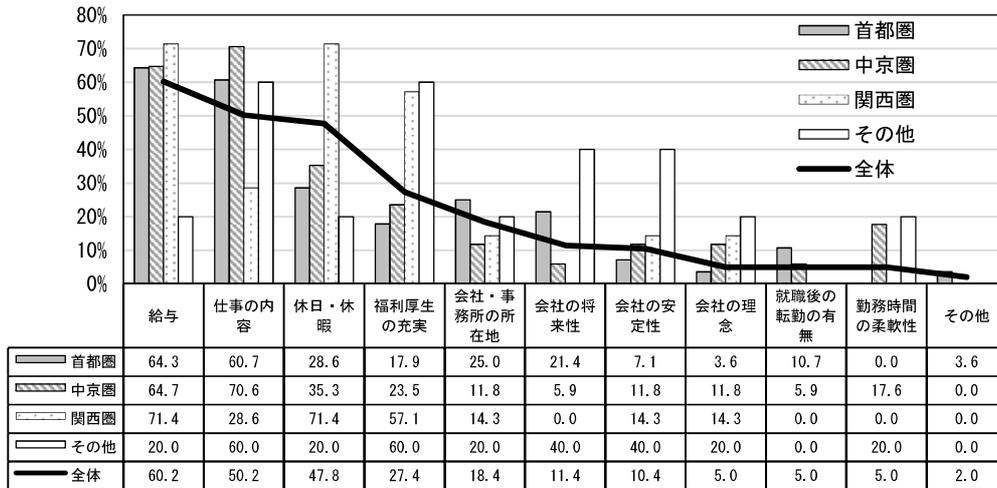
図表4-2 重視点(居住地別・県内)(複数回答可)



{全体数：201人、県内145人(浜松市70人、浜松市を除く県西部23人、県中部37人、県東部15人)}

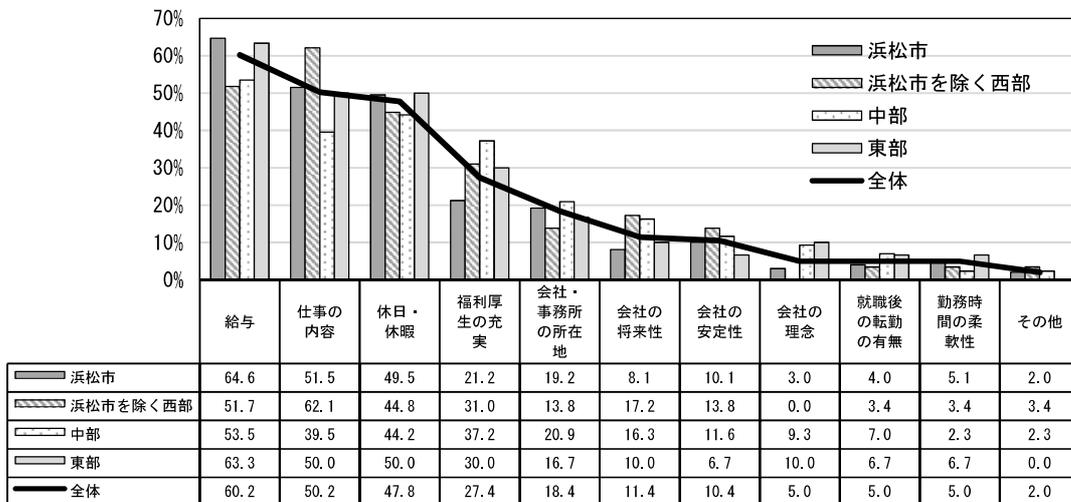
IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生

図表 4-3 重視点（居住地別・県外）（複数回答可）



{全体数：201人、県外56人（首都圏28人、中京圏16人、関西圏7人、その他5人）}

図表 4-4 重視点（出身地別）（複数回答可）



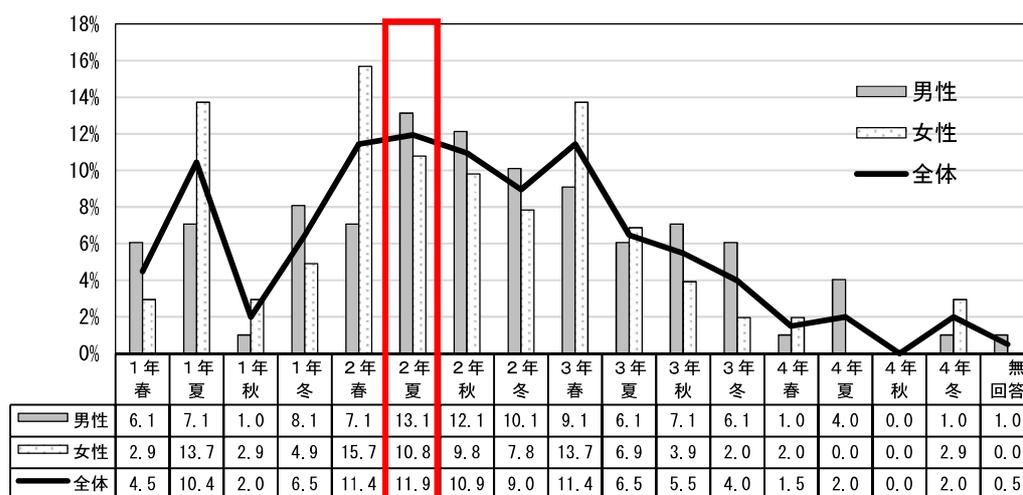
(全体数：201人、浜松市99人、浜松市を除く県西部29人、県中部43人、県東部30人)

(2) 就職活動の内容について

➤就職活動を開始した時期で最も割合が高いのは、「2年夏」(11.9%)である。次いで、「2年春」と「3年春」(11.4%)が同率で続く。前回(平成27年度)の調査では3年冬(56.0%)が最も高かったことと比較すると、就職活動への取組の早期化が目立つ結果となった。

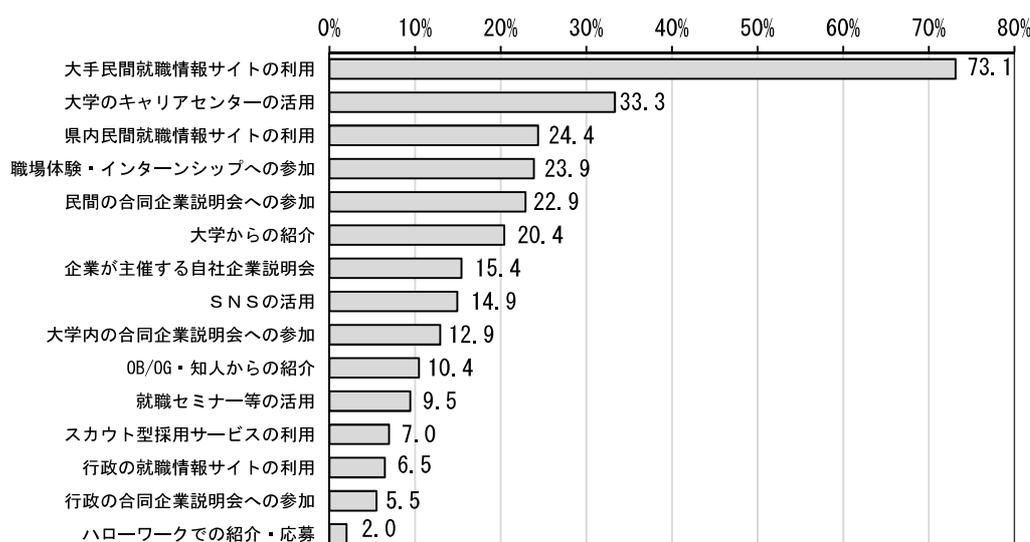
➤実施予定の就職活動は、「大手就職情報採用の利用」(73.1%)が最も高く、一方「行政の合同企業説明会」は、5.5%と低い数値となっている。

図表5-1 就職活動開始時期



(全体数：201人、男性99人、女性102人)

図表5-2 学生の就職活動予定(複数回答可)



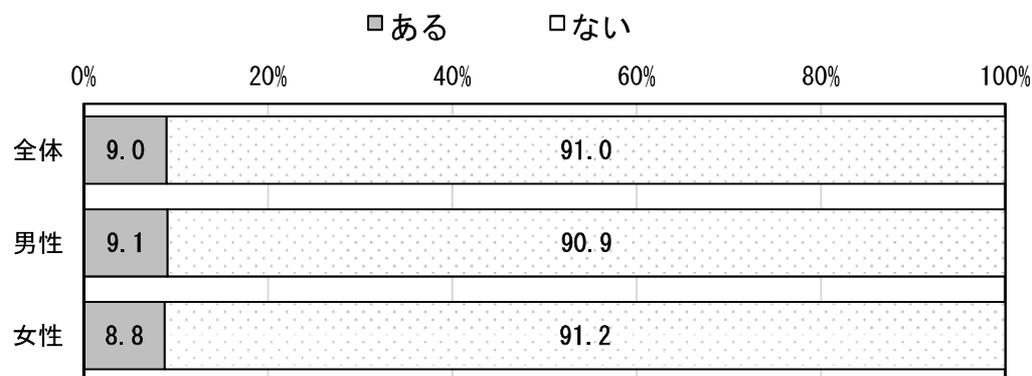
(全体数：201名)

IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生

(3) 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」について

➤ 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」閲覧経験割合は9.0%であった。平成27年度調査の9.4%から0.4ポイント減少した。

図表6-1 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」の閲覧の有無

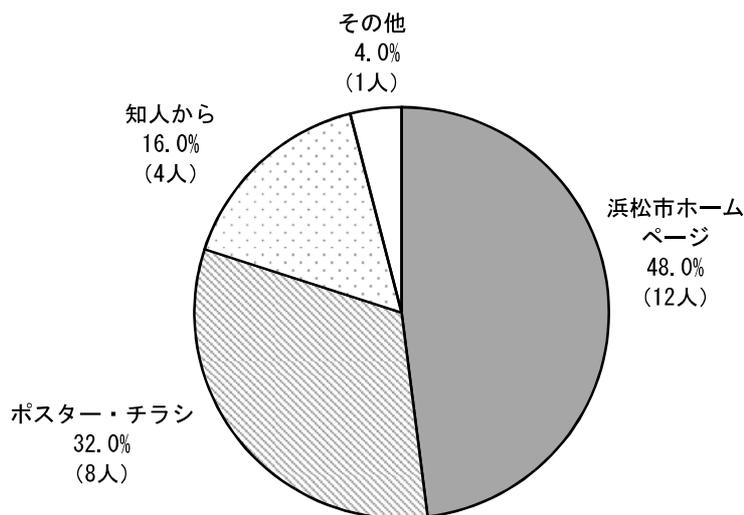


(全体数：201人、男性99人、女性102人)

● 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」の閲覧経路

➤ 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」閲覧者の48.0%が浜松市のホームページから、32.0%がポスター・チラシと回答した。平成27年度調査では、ホームページが53.3%、ポスター・チラシが3.3%であり、ポスター・チラシが大幅に増加した。これは大学やイベントでのチラシ配布等によるPR効果が表れていると推測される。

図表6-2 「浜松就職・転職ナビJOBはま!」閲覧経路(複数回答可)

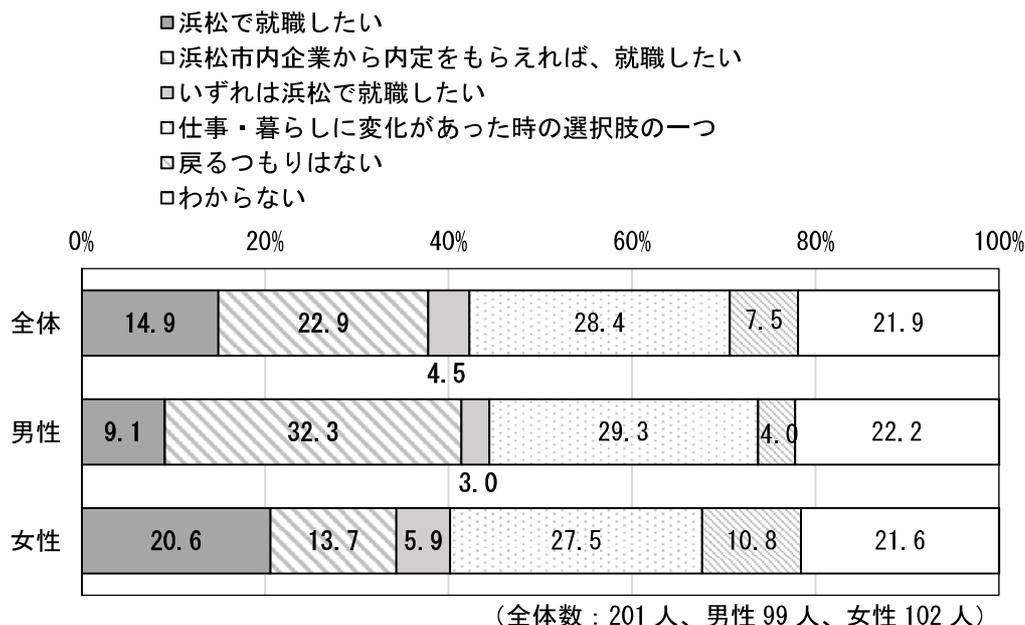


(全体数：18人、男性9人、女性9人)

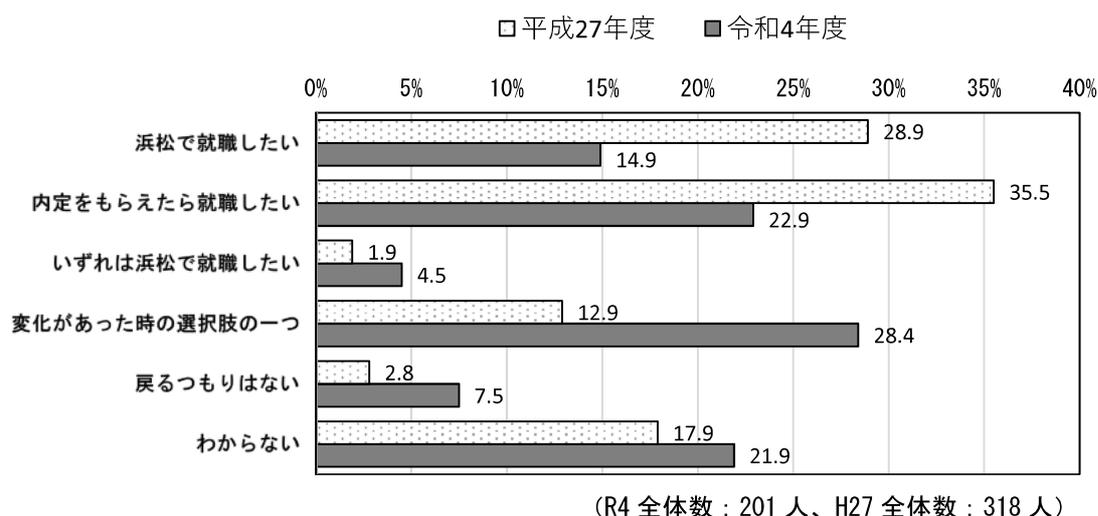
(4) 将来を含めた浜松市への就職意向について

浜松市への UIJ ターン就職の意向について、「浜松で就職したい」(14.9%)と「内定がもらえたら就職したい」(22.9%)と「いずれは就職したい」(4.5%)の市内就職への前向きな回答の割合は42.3%となった。(浜松市出身者の前向きな回答割合は58.6%)しかし、平成27年度調査の66.3%からは大幅に減少し、「変化があった時の選択肢の一つ」や「戻るつもりはない」の回答が平成27年度調査より増加している。

図表7-1 UIJ ターン就職意向 (性別)

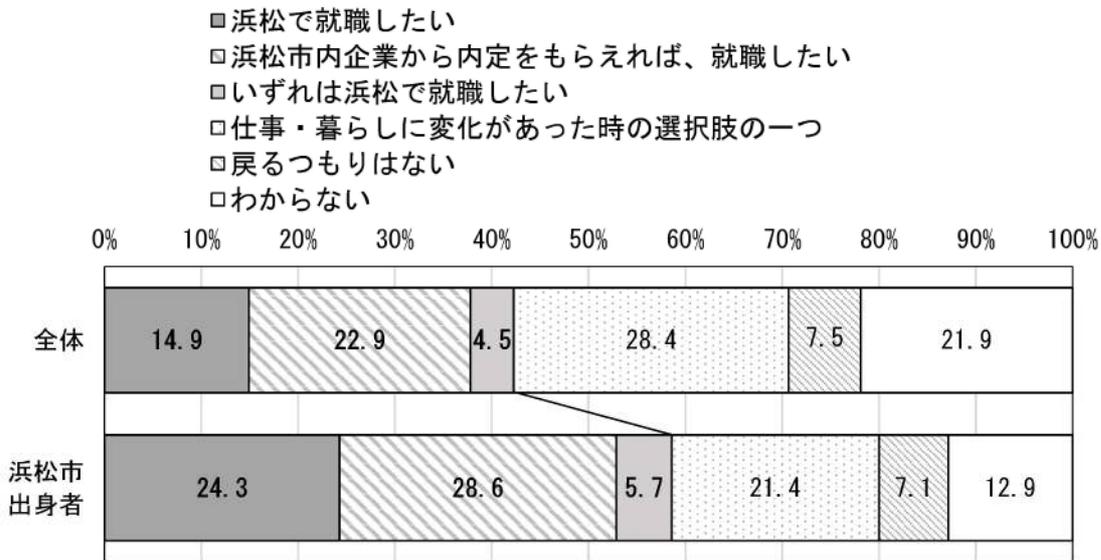


図表7-2 UIJ ターン就職意向 (全体・経年変化)



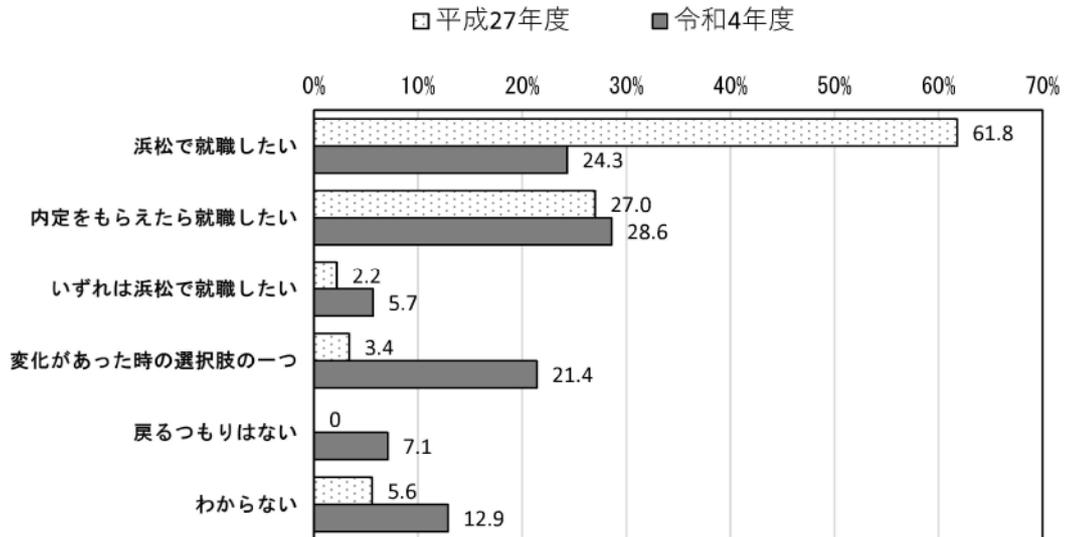
IV. 浜松市及び静岡県出身者を中心とした大学生

図表 7-3 UIJ ターン就職意向（浜松市出身者）



(全体数：201 人、浜松出身者数：99 人)

図表 7-4 UIJ ターン就職意向（浜松市出身者・経年変化）



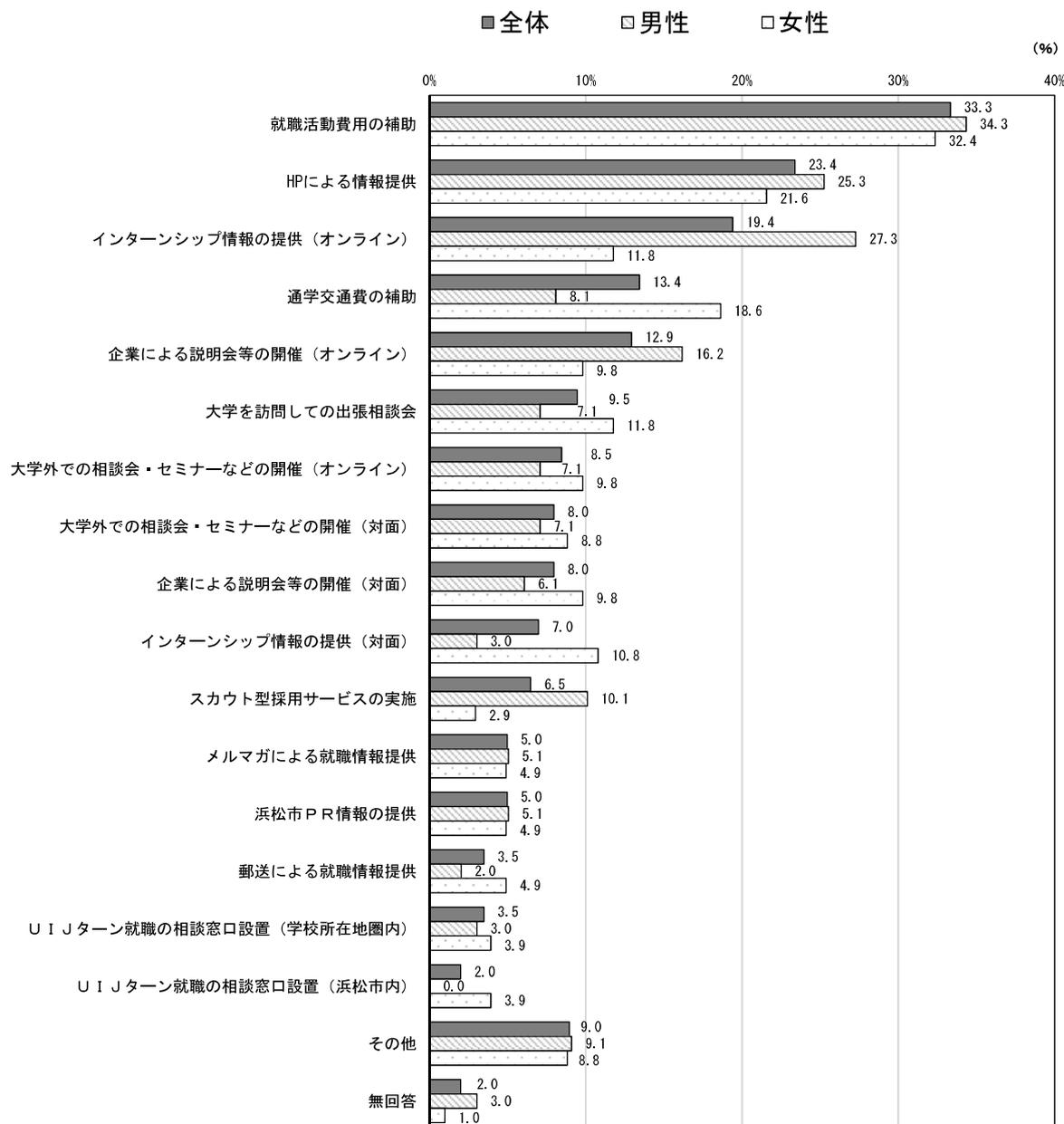
(R4 全体数：99 人、H27 全体数：89 人)

浜松市出身者の U ターン就職意向は、全体からすると高いが、平成 27 年度調査と比較すると、「浜松で就職したい」が 61.8%から 24.3%へ大幅に減少している。

(5) 浜松市へのUIJターン就職時に希望する支援・取組について

➤浜松市へのUIJターン就職時に希望する支援・取組について、割合が最も高いのは、「就職活動にかかる費用の補助」(33.3%)である。次いで「ホームページによる浜松市内企業就職情報の提供」(23.4%)、「インターンシップ実施企業情報の提供(オンライン)」(19.4%)と続く。イベントや情報提供については、対面よりオンラインを希望する傾向にある。

図表8 浜松市へ希望するUIJターン時の支援・取組(複数回答可)



(全体数 201 人、男性 99 人、女性 102 人)